



イベントディレクタ研修

競技規則編

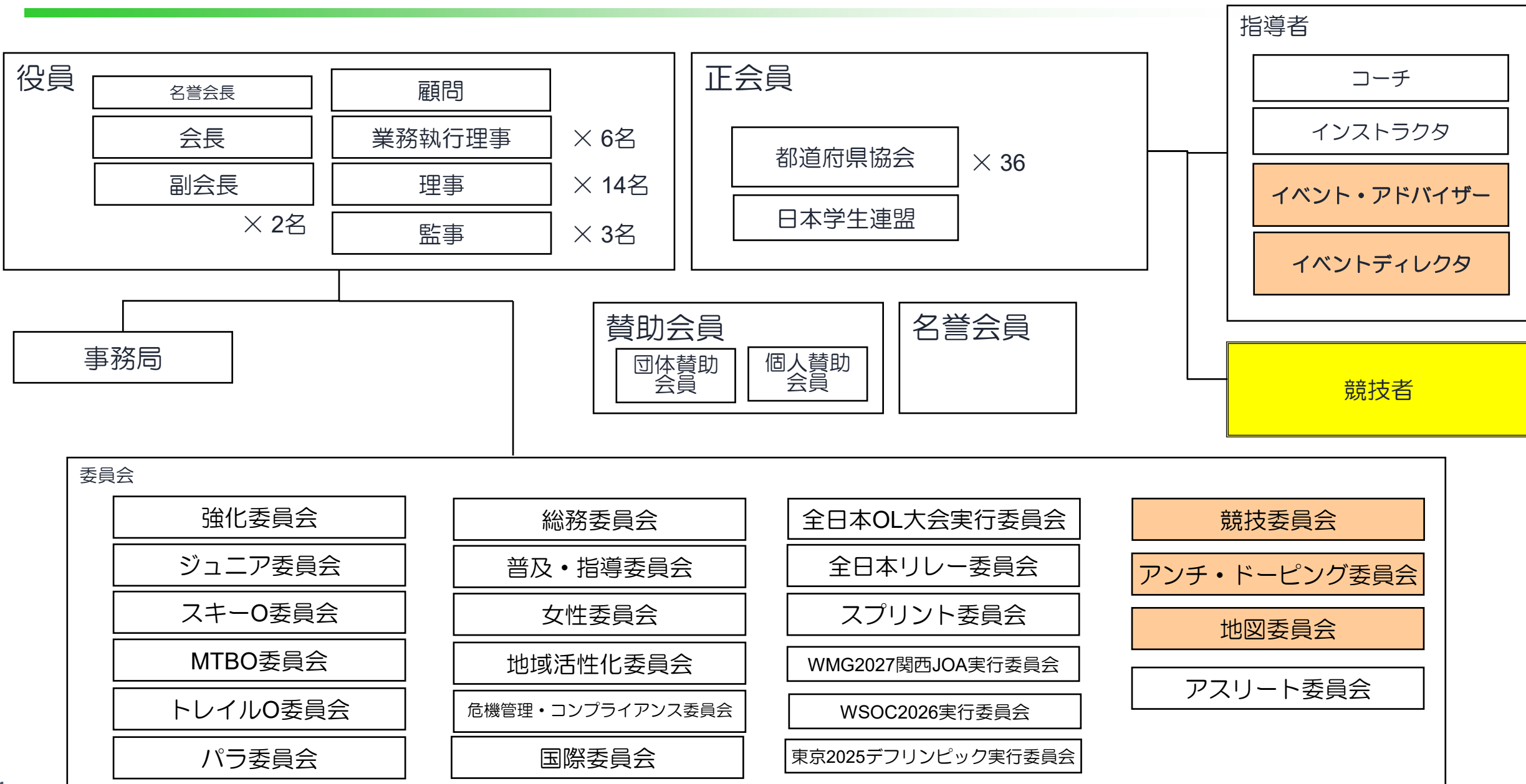


JOA概説

公益社団法人日本オリエンテering協会 Japan Orienteering Association (JOA)

年	月	できごと
1966	6.26	日本初のオリエンテering大会が「徒歩ラリー」として東京都高尾山にて開催
1969	6.23	国際オリエンテering連盟加盟
1969	9	財団法人健康・体力づくり事業財団内に日本オリエンテering委員会（JOLC）を設置
1970	10	パーマネントコースを設置、100キロコンペ始まる
1975	2.16	第1回全日本オリエンテering大会を埼玉県で開催
1976	-	世界選手権に杉山隆司が日本人初参加、個人26位
1990	7	日本オリエンテering協会を設立
1991	4.26	文部省の認可を得て社団法人日本オリエンテering協会を設立
1994	6.21	財団法人 日本体育協会（現・公益財団法人 日本スポーツ協会）に加盟
2005	8.7 - 14	世界オリエンテering選手権を愛知県で開催
2012	6.4	公益社団法人認定
2013	6.27	公益財団法人日本オリンピック委員会に承認団体として加盟
2019	6.6	事務局を東京都新宿区霞ヶ丘町・JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE内に移転

公益社団法人 日本オリエンテーリング協会





中央組織と都道府県協会と競技者の関係

- JOAは、各都道府県協会と日本学連の代表者（正会員）によって組織される。
- JOAは、各都道府県協会の上部組織ではない。
- JOAの施策は、都道府県協会を尊重している。
- 指導者および競技者は、各都道府県協会に所属する。
- JOAが公益社団法人として社会から認められる存在であることは、ひいては競技者の利益となるはず。



指導者資格制度



指導者資格制度

資格制度		
名称	主たる活動分野	概要
コーチ 2	競技力向上	オリエンテーリング競技の専門知識・技能及び指導力を活かし、指導者の育成指導を行うと共に中心的役割を担って地域クラブの育成等の指導ができる。
コーチ 1	競技力向上	オリエンテーリング競技の専門知識・技能及び指導力を活かし、地域クラブの教室等に於いて主に初心者を対象とした指導ができる
インストラクタ	普及	一般の人に対してオリエンテーリングの基礎的技能の指導ができる。 (例として、大会の初心者説明)
ナビゲーション・インストラクター	普及	一般活動者に対してオリエンテーリング以外（登山等）のナビゲーション・読図の指導ができる。
イベントアドバイザー	競技会運営	競技規則に則り、競技会が競技規則に準拠して行われていることを確認する。
イベントディレクタ	競技会運営	競技規則を理解し、大会運営の技能（地図、コース設定、コースコントロール、運営全般）を持ち、大会の質や公平性の維持を担う。

コーチは、日本スポーツ協会（JSPO）の公認スポーツ指導者資格に相当します。
他の資格はJOA独自に設けた資格です。

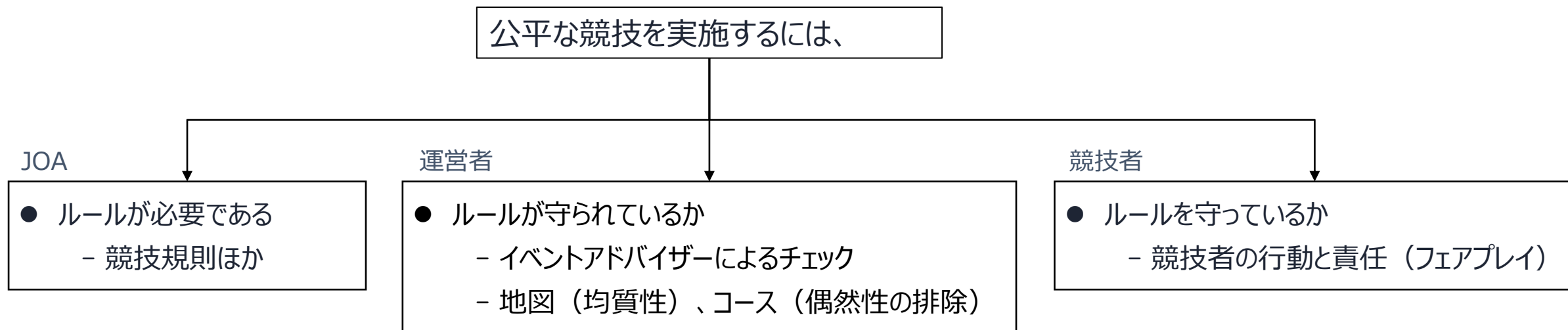
イベントアドバイザー（EA）の役割

EAは、大会運営から独立した立場から、ルールが守られて、公平な競技が実施されているかをチェックし、適切なアドバイスを行う。EDの上位資格と位置づけられる。
なぜそのルールが存在するかを理解することが大切。

- すべての競技者に同等の権利の義務がある。
- オリエンテーリング競技の公正さを保証する。



- 競技について諸規則が遵守され、公正に運営されていることを点検・確認する。



イベントディレクタ（ED）の役割と認定

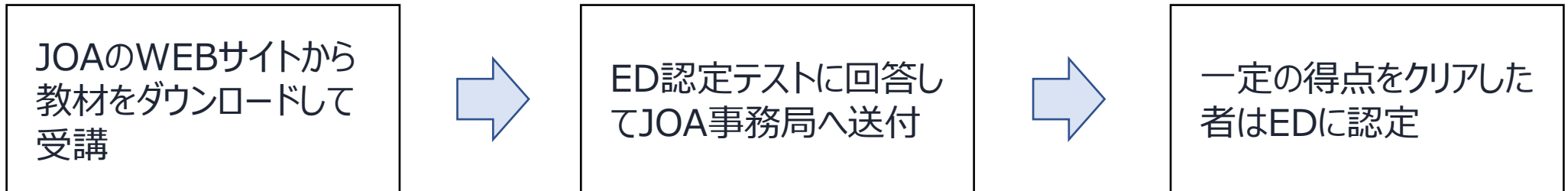
EDは、大会を運営するための資格である。

大会を開催するためには、EDの資格を持った者が配置されていることが推奨される。公認大会では必須である。

- ・ オリエンテーリングの競技会を適切に運営する。

EDは、大会を運営するために必要な知識を持っていると認定された者である。

教材による学習をしてテストに合格することで認定される。





公認大会とランキング大会



国内大会の枠組み

国内競技会（JOAが関与する対象）は、以下のように位置づけられる。

全日本大会

- 日本選手権者を決定する。
- 各競技形式毎に、原則として年 1 回開催する。
- JOAが主催する。（全日本委員会が所管）

公認大会

- 競技規則に忠実にしたがって開催され、競技の品質を保証する権威ある大会と位置付ける。
- JOAが、深い支援をしていく。
- 主催者からの申請により競技委員会が審査する。

ランキング 対象大会

- オリエンテーリング競技の活性化のための取り組み。
- 日本ランキングの対象となる。
- 日本ランキングの上位者は、全日本大会のEクラスに出場できる。
- 年齢別ランキングの対象となる。
- 競技委員会（ランキング小委員会）が、主催者と協議して指定する。



日本ランキング制度

競技者をランキングする制度で、全日本大会の選手権クラス出場資格にも利用される。

【概要】

- 2020年10月より、フォレスト競技にて運用開始

【目的】

- オリエンテーリング大会の競技結果から各競技者の実力を評価することにより、競技者の意識高揚、動機付け、ひいては技術向上に資すること
- 全日本オリエンテーリング選手権大会ミドルディスタンス競技部門およびロングディスタンス競技部門の選手権クラス（Eクラス）の出場資格付与のための基礎資料とすること

【対象】

- 全日本大会、公認大会、ランキング対象大会

【ランキング対象大会】

- 競技委員会（ランキング小委員会）が指定する



競技者登録制度

発端としては、日本体育協会（現日本スポーツ協会）の一員となったことをきっかけに、競技者（数）を正確に把握するためにできた制度。

- 『競技者登録に関する規則』
- 『競技者登録に関する細則』



本来あるべき理念としては、

- 自然や他人の土地を使用して行うなど特殊な事情のあるオリエンテーリングにおいて、主催者、競技者ともに責任ある体制を維持していくために、
 - 競技者にはオリエンテーリング界の一員として参画してもらう
 - JOAは責任あるサービスを提供することを狙いとしている。

- 日本学生連盟登録者は、競技者登録者に準じる。

選手登録に関する趣意書

オリエンテーリングは生涯スポーツであるとともに、自然との豊かなふれあいという側面も持っています。このスポーツを将来にわたって楽しむことができるためには、組織と個々の競技者が一体となって協力し努力していくことが肝要です。

平成3年（1991年）に日本オリエンテーリング委員会を発展的に解消して設立した社団法人日本オリエンテーリング協会は、平成6年（1994年）には財団法人日本体育協会への加盟も果たしました。日本国内におけるオリエンテーリングの競技レベルも年々向上の一途をたっています。

日本オリエンテーリング協会は、我国に於けるオリエンテーリング界を統括し、代表する団体として、選手登録制度を設定することにより、責任を持つ範囲を明確にし、その範囲に確実なサービスを行うように努めます。一例をあげるならば、国内での継続的なオリエンテーリング大会の開催、それらの大会に共通したルールやレベルの維持、日本オリエンテーリング協会または国際オリエンテーリング連盟が公認する大会情報の通知や選手の派遣事業などがこれに相当するでしょう。

競技者は選手登録を行うことにより、日本オリエンテーリング協会の活動によって利益を受ける権利を得るとともに、オリエンテーリングとその社会に責任を持って関わろうという意志表明することになります。

日本オリエンテーリング協会には、各都道府県に設立されたオリエンテーリング協会または委員会が、正会員として加盟しています。選手登録をした者は、これら会員の構成員となります。

選手登録制度は、日本オリエンテーリング協会の設立目的を達成するための、非常に大切な施策のひとつと位置づけられるものであります。

平成8年6月8日

社団法人 日本オリエンテーリング協会

会長 大野 晃



競技者登録制度

競技者登録をした者は、

- 全日本大会および公認大会のEクラス、選手権クラス（リレーを含む）、Aクラスに出場できる。
- 日本代表として国際大会に出場できる。
- 日本ランキングの対象となる。
- 年齢別ランキングの対象となる。

制度の理念としては、オリエンテーリングを継続的に楽しもうと思うものは全員登録することが原則なのであるが、実際には公認大会のE/Aクラスに参加する競技者にとどまってしまうている。



日本オリエンテーリング競技規則

はじめに

オリエンテーリングというスポーツを適切に実施するために、競技規則が定められています。
規則とは、そのスポーツの理念を実現し、公平に競技を実施するために存在します。
オリエンテーリングの理念とは、ナビゲーション能力と体力・走力を競うスポーツであるということです。

理想的なことを言えば、理念が共有されていれば規則は必要ないかもしれません。

ただどうしても、

- 統一的なルールがないと不便である。
- 競技の公平性を保証しなければならない。

ということがあるので、必要最小限の規則が必要となります。

競技にたずさわるものは、個々の規則の条文が何のために存在するかの背景を理解して、適切に運用することが求められます。「競技規則」を解釈するにあたっては、スポーツとしての公平さの保持を心がけなければなりません。

もちろん規則は守ることが大原則です。しかしながら、制約条件によっては、理念を損ねない範囲において逸脱運用することは認められます。

また、ひょっとしたら、規則は必ずしも完璧でないかもしれません。理念を実現するためにそぐわない規則、または実際に運用することが困難な規則があれば、JOAとしては修正していく方針です。

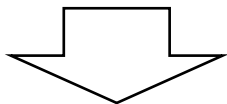
日本オリエンテーリング競技規則

日本の規則はIOFの規則をベースに作成されている。

日本の規則 = IOF規則であることが望ましいが、IOF規則は特定の国際大会のために規定されている条項や、日本国内の事情により運用困難な条項があるため、ローカルの規則を定めている。

IOFオリエンテーリング競技規則

COMPETITION RULES FOR INTERNATIONAL ORIENTEERING FEDERATION (IOF) FOOT ORIENTEERING EVENTS



日本オリエンテーリング競技規則

1. 日本国内の競技会は、日本の競技規則に基づいて開催される。
2. 規則の解釈などのために、適宜IOFの競技規則を参照することは、推奨される行為である。
3. 日本の競技規則とIOFの競技規則の規定に相違があった場合は、日本の競技規則が優先される。
4. 国際大会（AsOC、WRE等）が国内で開催される場合は、IOF競技規則が適用される。



IOF競技規則の構成

1. Definitions

Definition

2. General provisions

3. Event programme

4. Event applications

5. Classes

Before event

6. Participation

7. Costs

8. Information about the event

9. Entries

10. Travel and transport

11. Training and model event

12. Starting order and heat allocation

13. Team officials' meeting

14. Terrain

15. Maps

16. Courses

During event

17. Restricted areas and routes

18. Control descriptions

19. Control set-up and equipment

20. Punching systems

21. Equipment

22. Start

23. Finish and time-keeping

24. Results

25. Prizes

26. Fair play

Jury system

27. Complaints

28. Protests

29. Jury

30. Appeals

31. Event control

Adviser system

32. Event reports

33. Advertising and sponsorship

34. Media service

Various items

Appendix 1: General competition classes

Appendix 2: Principles for course planning

Appendix 3: IOF resolution on good environmental practice

Appendix 4: Approved punching systems

Appendix 5: Leibnitz Convention

Appendix 6: Competition Formats

Appendices 7-13: Regional Rules



競技規則の構成

日本の規則はIOFの規則に構成を合わせるようにしているが、国内で適用するのにそぐわない条項は割愛している。

IOF規則

1. 定義 (Definitions)
2. 総則 (General provisions)
3. 競技会プログラム (Event programme)
4. 競技会申請 (Event applications)
5. クラス (Classes)
6. 参加 (Participation)
7. 経費 (Costs)
8. 競技会についての情報 (Information about the event)
9. エントリー (Entries)
10. 旅行および輸送 (Travel and transport)
11. トレーニングおよびモデル・イベント (Training and model event)
12. スタート順およびヒートの配分 (Starting order and heat allocation)
13. チーム・オフィシャル・ミーティング (Team officials' meeting)
14. テレイン (Terrain)
15. 地図 (Maps)
16. コース (Courses)
17. 制限されているエリアおよびルート (Restricted areas and routes)
18. コントロール位置説明 (Control descriptions)
19. コントロール・セットアップ、および装置 (Control set-up and equipment)
20. パンチング・システム (Punching systems)
21. 器具 (Equipment)
22. スタート (Start)
23. フィニッシュおよび計時 (Finish and time-keeping)
24. 成績 (Results)
25. 表彰 (Prizes)
26. 公正な競技 (Fair play)
27. 申し立て (Complaints)
28. 提訴 (Protests)
29. 裁定委員 (Jury)
30. アピール (Appeals)
31. イベント・コントロール (Event control)
32. イベント・レポート (Event reports)
33. 広告および後援 (Advertising and sponsorship)
34. メディア・サービス (Media service)



国内規則

1. 定義
2. 総則
3. 競技会の開催
4. クラス
5. 経費
6. 競技会についての情報
7. エントリー
8. モデルイベント
9. スタートリスト
10. チームオフィシャル・ミーティング
11. テレイン
12. 地図
13. コース
14. 制限されているエリアおよびルート
15. コントロール位置説明
16. コントロールの設置
17. パンチング・システム
18. 服装および器具
19. スタート
20. フィニッシュおよび計時
21. 成績
22. 表彰
23. 公正な競技
24. 調査依頼
25. 提訴
26. 裁定委員
27. 上訴
28. イベント・コントロール
29. 報告書
30. その他

競技に関する国内規則には以下のものがある。

- | | |
|---------------|--|
| 競技委員会 | <ul style="list-style-type: none">・ 『日本オリエンテーリング競技規則』・ 『公認大会開催に関する規則』・ 『全日本大会エリートクラス出場資格規則』・ 『競技者登録に関する規則』 および 『同施行細則』・ 『イベントアドバイザー資格認定に関する規則』 および 『同細則』・ 『競技規則および関連規則に関するガイドライン』・ 『日本オリエンテーリング選手権（個人競技）実施基準』・ 『日本オリエンテーリング選手権（リレー競技）実施基準』・ 『年齢別ランキング実施基準』 |
| 全日本委員会 | <ul style="list-style-type: none">・ 『日本ランキング規則』・ 『日本ランキング対象大会運用マニュアル』 |
| 地図委員会 | <ul style="list-style-type: none">・ 『国際オリエンテーリング地図図式（ISOM）』・ 『国際スプリントオリエンテーリング地図図式（ISSprOM）』・ 『国際コントロール位置説明仕様（ISCD）』 |
| AD委員会 | <ul style="list-style-type: none">・ 『アンチ・ドーピング規程』 |

IOFの規則が掲載されているサイトを紹介する。

競技に関する規則

<https://orienteering.sport/iof/rules/>

- Competition rules ORIENTEERING
- Control Descriptions

地図に関する規則

<https://orienteering.sport/iof/mapping/>

- International Specification for Orienteering Maps (ISOM)
- International Specification for Sprint Orienteering Maps (ISSOM/ISSprOM)
- Test sheet for assessing print quality for orienteering maps
- Other mapping related documents

競技会に関する規則

<https://orienteering.sport/orienteering/internal/event-organising/>

- World Ranking Events Manual
-
-



この章の以降のページでは、右上に該当する『日本オリエンテーリング競技規則』の章を示しています。
競技に関する国内規則類を参照しながら、内容を理解してください。

「参考」のページを除いて、『競技規則』で定めていることを**太字**、『ガイドライン』で定めていることを細字、補足的な説明を**青字**で記載しています。



『日本オリエンテーリング競技規則』

日本国内オリエンテーリング競技会について、定めたもの

『日本オリエンテーリング競技規則および関連規則類の運用に関するガイドライン』

日本オリエンテーリング競技規則および競技にかかわる関連規則について、その解釈、適用、補足および具体的な事項について示したもの

関連規則

- 『公認大会開催に関する規則』
- 『全日本大会エリートクラス出場資格規則』
- 『競技者登録に関する規則』
- 『イベントアドバイザー資格認定に関する規則』
- 『国際コントロール位置説明仕様』(ISCD)
- 『国際オリエンテーリング地図図式』(ISOM)
- 『国際スプリントオリエンテーリング地図図式』(ISSprOM)
- 『アンチ・ドーピング規程』
- その他、実施基準

} 「地図図式」



オリエンテーリングは、競技者（competitor）がトレイン（terrain）の中を独力でナビゲーションして進むスポーツである。

競技者は、地上に表示された多くのコントロール・ポイント（control points）を、地図とコンパスのみを使用して、可能な限り短時間で走破しなければならない。

コースは、コントロールの設置位置によって定義されるものであり、競技者がスタートするまで公開されない。

（インターバル・スタート）

競技者はトレインの中を独力でナビゲーションして走る。

（マス・スタート／チェイシング・スタート）

競技者が接近して走ることがありうることになるが、独力でナビゲーションすることが求められる。



分類	形式	コメント
競技の開催時刻	昼間競技（日照下） 夜間競技（暗中）	夜間競技の公認大会も事例がある ただし全日本E権の対象外
競技の種別	個人競技 リレー競技 合算競技 チーム競技	合算競技はIOF規則にはないが、国内ではクラブ対抗戦などで採用されているため追加
競技結果の決定方法	単一レース競技 複数レース競技 予選・決勝レース競技 ノックアウト・スプリント競技	
コントロールの通過順序	ポイント競技 フリー・ポイント競技	
レース距離（または形式）	ロング・ディスタンス競技 ミドル・ディスタンス競技 スプリント競技 その他の距離	距離だけではなくレースのコンセプトも異なる
スタート方式	インターバル・スタート マス・スタート チェイシング・スタート	マススタートは主にリレー競技で採用 チェイシングスタートは主に複数レース競技の最終レースで採用



ナイト競技が公認大会となった事例もある。

【注意事項】

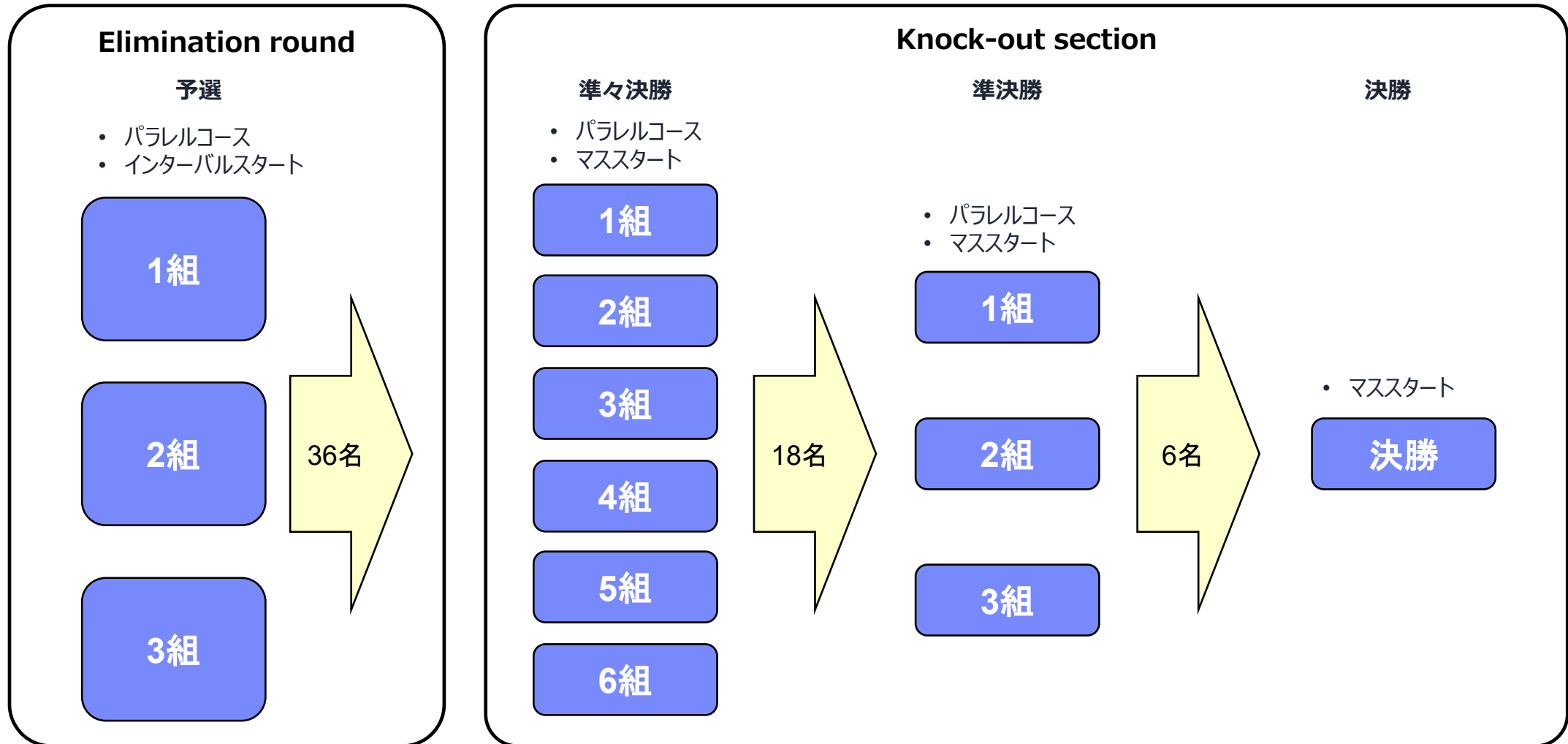
- 競技責任者またはイベントアドバイザーに、ナイト競技の経験があることが要求される。
- 参加者の安全確保に十分配慮する。
（レースと同じ時間帯に試走をしておく 等）
- 昼間にも同じトレインで大会を開催する場合、昼間の競技に参加した者が有利にならないよう配慮する。
（トレインの重複や地図の管理 等）
- コントロールの方式（ランプ方式か？反射板か？）をブレティンに記載する。

【成績の取り扱い】

- （公認大会であっても）エリートクラス出場資格取得の対象とはしない。
- 年齢別ランキングの対象とする。



世界選手権の例



ノックアウト・セクションでは、コース選択フォークキングを使用して、各選手がスタート20秒前にコースが異なる3つの地図のうちから1つを選択する。



用語	定義
競技者	選手個人およびチーム
会員	都道府県オリエンテーリング協会（正会員） 日本学生オリエンテーリング連盟 日本デフオリエンテーリング協会
競技会	オリエンテーリング大会の全プログラム （スタート順抽選、チーム・オフィシャル・ミーティング、レース、表彰式 等）
全日本大会	日本チャンピオンを決する公式の競技会（日本選手権クラスを設ける） JOAが主催する 全日本ロング、全日本ミドル、全日本スプリント、全日本リレー
公認大会	JOAが記録を公式に認定する 全日本大会のエリートクラス出場資格および年齢別ランキングの対象
ランキング対象大会	日本ランキングを決定する フォレスト競技／スプリント競技の2種目、エリート／年齢別の2カテゴリ
イベントアドバイザー	全日本大会、公認大会およびランキング対象大会をコントロールする
年度	4月1日から翌年3月31日まで



「競技規則」を解釈するにあたり、スポーツとしての公平さの保持を第一義としなければならない。

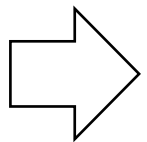
すべての競技者、チーム・オフィシャル、大会組織と関係を持つ者、競技者と接触する者すべてが対象

- どんなスポーツにも理念がある。「核となる競技特性」または「本質」を実現するということであり、オリエンテーリングでいえば、「ナビゲーション能力と走力を競うスポーツ」ということになるだろうか。
- 公平な条件で理念を競うために、競技規則が存在する。
- 規則にうたわれている各条項が、何のために定められているのかを考えて理解することが大切。



- ・ 国内におけるオリエンテーリング大会の基準となるものである。
- ・ 全日本大会および公認大会は、「競技規則」を遵守して開催される。

- ・ 大会主催者は、競技規則と矛盾しなければ、追加規定を定めてもよい。
- ・ テレインの制限等により、やむをえず競技規則を逸脱することもありうる。



- ・ イベントバイザーの同意が必要
- ・ ブレティンで公表する ※ブリテン →ブレティンに名称を変更

- ・ 国際大会（Wcup等）とする場合は、IOFの競技規則が優先する。。
- ・ 国内規則で詳細に定めていない事項については、IOFの競技規則を参考にしてよい。
（新しく追加された競技種目 等）



【競技規則の逸脱】

- 競技規則は遵守することが原則
- 特別な事情がある場合は、イベントアドバイザーが許可
 - イベントアドバイザーは、逸脱対象の規則が何のために存在するかを考えて判断する。
 - オリエンテーリングという競技の本質や公平性を損なうことのないように配慮しなければならない。
 - 過去の事例との整合性を損なわないようにする。（JOA競技委員会に相談する。）
- JOA競技委員会に報告、ブレティン（要項・プログラム等）で周知

【JOA競技委員会との協議】

- 競技規則および関連規則類の根幹にかかわる逸脱
 - エリートクラス出場に関わる参加資格・クラス設定など

競技会	規則	コメント
全日本大会	日本オリエンテーリング選手権（個人競技）実施基準 日本オリエンテーリング選手権（リレー競技）実施基準	JOA が主催 各競技形態について毎年度1回開催
公認大会	公認大会開催に関する規則	カテゴリF（フォレスト） ・ ロング・ディスタンス競技 ・ ミドル・ディスタンス競技 カテゴリS（スプリント） ・ スプリント競技
ランキング対象大会	日本ランキング規則	
その他		

- ・ 公認大会に、日本選手権クラスを設置することがある。
- ・ JOAが主催する競技会では、会員に主管を委ねることがある。
- ・ 実行委員会は主催者の中に位置づけられる。



『公認大会開催に関する規則』

＜公認大会の主催者＞

- ・ 会員、会員に所属するクラブ等、JOAが認めた団体
- ・ 会員を通して申請する
- ・ 開催地となる都道府県協会の同意が必要

JOA競技委員会が、『日本オリエンテーリング競技規則』・『公認大会開催に関する規則』等の適合性、および大会としての妥当性を遅延なく審査する。

＜公認申請の期限＞

- ・ 開催6カ月前の月末（左記期限までに仮申請すれば、3カ月前の月末まで延長）

＜仮申請で必要となる情報＞

- ・ 大会名、主催者
- ・ 開催期日
- ・ 開催場所（市町村）
- ・ カテゴリ、競技形態
- ・ 大会連絡先
- ・ 主な運営要員
- ・ 公認大会を申請する背景
- ・ 競技性を確保するための計画
- ・ 円滑に大会運営をするための計画
- ・ 渉外に関する状況 など



＜公認取消＞

- 申請書の記載事項と異なることが判明した場合
- 競技規則に基づいての大会開催が困難とイベントアドバイザーが判断した場合
 - ⇒ 損害賠償はできない
 - 公認料は返却されない

＜公認取下＞

- 地元からの要請などやむを得ない事情で大会開催が困難となった場合
 - ⇒ 主催者の責任でないとイベントアドバイザーが判断すれば、公認料は返却



【令和3年4月より】

- ・ **カテゴリの変更**
 - ・ カテゴリ F … ロング・ディスタンス／ミドル・ディスタンス競技、 地図図式 ISOM
 - ・ カテゴリ S … スプリント競技、 地図図式 ISSprOM
- ・ **公認料は大会単位**
 - ・ カテゴリ F 10,000円、 カテゴリ S 5,000円
- ・ **メダルをJOAが提供する**

【令和4年度以降の取り組み】

- ・ **公認大会審査基準の明確化**
- ・ **JOAからの支援強化**

オリエンテーリングは「みんなのスポーツ」であるので、すべての人が参加できる適切なクラスを設ける。
特に、高年齢層や若年層の競技者へ配慮することが大切。

- 性別、年齢、コース難易度・距離を基本とし、大会の規模、参加者数などを加味して設定する。
→ 主催者が設置するクラスを決めてよい。
- ガイドラインで、クラス分けの基本パターンを示している。
→ どの大会でも統一したクラスが設置されることが望ましい。
- エリート出場資格に係るクラスを基本から変更する場合は、JOA競技委員会との協議を必要とする。
→ 不公平を排除するため。
世界選手権等の国内選考会を兼ねる場合など。



- ・ **性別（男子M、女子W）、年齢、技能レベル（E、A、B）および距離（L、S）により分ける。**
 - ・ **年齢は、その年度内に達する年齢とする。**（4月1日生は年度末に年齢が加算される。）
 - ・ **女子は男子のクラスに出場してもよい。**
- ・ 原則として、Eクラスは全日本大会において設ける。有資格者のみが参加できる。
（全日本大会以外でEクラスを設置してもよい。主催者は適切な参加制限を設けてよい。）
- ・ M/W21クラスに参加できるのは19歳（大学生）以上。 ←若年層の保護のため
スプリント競技では年齢制限を緩くしてよい。
- ・ **M/W21より年齢が上のAクラスでは、年齢より若いクラスに参加してもよい。**



- 20歳以下のクラス分けは、学年を基本とする。
Aクラスでは、1つ上の年齢クラスに参加してもよい。

M/W20A	19-20歳	大学1-2年生
M/W18A	16-18歳	高校生
M/W15A	13-15歳	中学生
M/W12	11-12歳	小学校高学年
M/W10	10歳以下	小学校中学年以下

- 小学生はA、Bを区別しない。
実力のある者は、1つ上の年齢クラスに参加してもよい。
低・中学年用のクラスを設けることが望ましい。
- 可能な限り、高い年齢層のためのクラスを設けることが望ましい。（M/W90など）
- Bクラスは年齢に範囲（35～39歳など）を設ける。距離によるクラス（L、S）としてもよい。
- 初心者用クラスを設けることが望ましい。（個人N、グループG）
→『フィットネス・オリエンテーリング実施規程』



クラス分けのパターン（例）

Aクラスパターン①

クラス	年齢
M/W21A	19歳以上
M/W21AS	21歳以上
M/W35A	35歳以上
M/W40A	40歳以上
M/W45A	45歳以上
M/W50A	50歳以上
M/W55A	55歳以上
M/W60A	60歳以上
M/W65A	65歳以上
M/W70A	70歳以上
M/W75A	75歳以上
M/W80A	80歳以上
M/W85A	85歳以上
M/W90A	90歳以上
M/W20A	19-20歳
M/W18A	16-18歳
M/W15A	13-15歳
M/W12	11-12歳
M/W10	10歳以下

Aクラスパターン②

クラス	年齢
M/W21A	19歳以上
M/W30A	30歳以上
M/W40A	40歳以上
M/W50A	50歳以上
M/W60A	60歳以上
M/W70A	70歳以上
M/W80A	80歳以上
M/W90A	90歳以上
M/W20A	19-20歳
M/W18A	16-18歳
M/W15A	13-15歳
M/W12	11-12歳
M/W10	10歳以下

Aクラスパターン③

クラス	年齢
M/W21A	19歳以上
M/W35A	35歳以上
M/W50A	50歳以上
M/W65A	65歳以上
M/W75A	75歳以上
M/W85A	85歳以上
M/W20A	19-20歳
M/W18A	16-18歳
M/W15A	13-15歳
M/W12	11-12歳
M/W10	10歳以下

Bクラスパターン①

クラス	年齢
M/W21B	21-34歳
M/W35B	35-49歳
M/W50B	50-64歳
M/W65B	65歳以上
M/W20B	19-20歳
M/W18B	16-18歳
M/W15B	15歳以下

Bクラスパターン②

クラス	年齢
M/WBL	長い
M/WBS	短い

リレークラスパターン

クラス		構成	人数
ME	日本選手権	男子、年齢制限なし	3名
WE		女子、年齢制限なし	
MS	シニア選手権	男子、35歳以上	
WS		女子、35歳以上	
MJ	ジュニア選手権	男子、21歳以下	
WJ		女子、21歳以下	
MV	ベテラン選手権	男子、50歳以上	
WV		女子、45歳以上	
XV	スーパーベテラン選手権	男子、65歳以上 女子、50歳以上	
XJ	リトルジュニア選手権	男子／女子、15歳以下	



- 参加者が少ないと予想される場合や、参加申込者が少なかった場合に、年齢の連続するクラスを統合してもよい。

運営負担を軽減する。

競技者に競う機会を与える。

コースを同じにしてもクラスを分けて表彰対象を増やす工夫をすることが望ましい。

- 各年齢層における体力や技術等を考慮して無理な統合はしない。
 - 低年齢層（中学生以下）、高年齢層の統合は慎重に。
 - 技術レベルを混合しない（A、Bを混合しないなど）



- 参加者数が多いクラス
 - 120名を越えるクラス。
 - ← スタート時間帯（競技時間帯）を公平にする。2時間以内が望ましい。
- 競技者を均等に分ける。（人数、レベル、年齢、所属 等）
 - ※ 完全にランダムにすることが、確率論的には最も公平になる、という考え方もある。
- コースは同等にする。（難易度、距離）

- エリートクラスは最高の競技レベルを要求するクラスである。
 - ✓ 技能レベルの高い競技者のみが出場できる。（レースで結果を残すことが必要）
 - 日本ランキングの上位者、公認大会（学生選手権、中高選手権）で結果を残した者
 - ✓ カテゴリ（フォレスト、スプリント）によってエリート資格を区別する。
- 若年層保護のため、年齢制限は厳格。
- 強化選手に指定されている者は、エリートクラスに出場できる。

推薦対象（以下のいずれかに該当し、かつ実力が相当であると認められる場合）

- 資格取得のためのレース中に負傷者を救済するため、自分のレースを犠牲にせざるを得なかった者
- 海外赴任または留学により資格取得のためのレースに出場できなかった者
- 出産により資格取得のためのレースに出場できなかった者
- 資格取得のための大会で男性のクラスに出場した女性選手
- スプリントにおける例外

- **エントリー費は主催者が決定する。**
 - **競技会場までの移動、宿泊、食事等の経費は、エントリー費とは別に参加者負担。**
 - **競技の場所まで公式の輸送手段を強制する場合は、エントリー費に含める。**
 - **支払遅延や遅れエントリーには、割り増しをしてよい。（受け付けなくてもよい。）**
- **イベントアドバイザーの経費は、交通費はJOA、滞在費は主催者が負担。**
- **公認大会では、『公認大会開催に関する規則』に定める公認料を徴収する。**
- **公認料を免除することもできる。**



- ブレティンは、文書またはWEBで公表する。
 - ブレティン3は、希望者には文書で送付する。
- すべての公式情報は、イベントアドバイザーが承認する（※ブレティン1を除く）
- 可能な限り早めに公表する。 ← 参加者の便宜
同日に競技会が重複することを避ける

・ 主な記載事項

名称	通称	期限	定義
ブレティン 1	開催告知	～6カ月前	大会の概要（主催者、日程、開催地、競技形態、問い合わせ先 等）
ブレティン 2	大会要項	～2カ月前	- 競技に関する概要（クラス、コース、トレインの概要、地図の情報、追加の規定 等） - エントリーに関する情報 - イベントアドバイザー
ブレティン 3	プログラム	～1週間前	- 競技に関する詳細情報（コースの詳細、トレインの詳細、ドーピング検査 等） - スタートリスト - 交通案内 - 詳細なイベント・スケジュール、会場レイアウト - 過去の地図
ブレティン 4	追加の競技会情報 （公式掲示板）	～当日	- 追加の競技情報 - 裁定委員

- EクラスおよびAクラスに出場するためには、競技者登録が必要。（公認大会の場合）
- エントリーに必要な情報
 - 氏名
 - 性別、誕生日（年齢）、競技者登録番号 … エントリーできるクラスを判断するための情報
 - 連絡手段

必要以上の個人情報を要求しないようにする。

- 全日本大会以外でEクラスを設ける場合、参加制限は主催者が定める。
- 事前エントリーが基本。代理出走は認められない。当日エントリーは参考記録。

運営側の負担軽減、スポーツとしての常識



- モデル・イベントは、実施することが望ましい。
 - 前日または当日
 - テレインのタイプ、地図の品質、コントロールの特徴物、コントロールの設置、給水ポイントおよびマクト・ルートについて確認するため
- モデル・イベントの有無にかかわらず、ブレティンで情報を提供する。
- トレーニングの機会は、用意しなくてもよい。
 - トレーニングは海外選手が日本のテレインに慣れるために必要なものであろう。
 - 国内大会においては、必要性が薄く、運営者の負担になると考える。

- インターバル・スタート ... 個人競技
 - マス・スタート ... リレー競技（複数のコースの組み合わせを用意）
 - 組み合わせは最終の競技者がスタートするまで秘密個人競技でマス・スタートとする場合は、パターンを変える。
 - バタフライ・ループを採用するなど
 - 全体としては同じコースを走る
 - チェイシング・スタート ... 複数レース競技
-
- スタート・リストは前日まで（チーム・オフィシャル・ミーティングまで）に公表する
 - 事前に競技者に通知、またはブリテンもしくはWEBで公表
 - スタート地区に掲示するのが望ましい

公平な条件にする。競技者相互の干渉を最小限にする。観戦者の興味を引く。

【スタート時間帯】 ・ 同一クラス120分以内、大会180分以内が望ましい。

← 気温や気象条件などレースの条件を同じにする

【スタート順】

- ・ **無作為抽選で決める**。シードは適切に選考、30%程度まで。
- ・ 同一所属の競技者が連続しないことが望ましい。（前後の入れ替えを行う）
- ・ 複数クラスが同一コースの場合、優勝設定時間の短いクラスが先か、十分な間隔を置く。
- ・ 当日参加者が、事前申込者の競技に影響しないようにする。

【スタート間隔】

- ・ **エリートクラス：** **ロング 2分以上**（3分が望ましい）、**ミドル 2分以上、スプリント 1分**
- ・ その他のクラス： **ロング／ミドル 1分以上、スプリント 1分**（30秒でもよい）
- ・ 小学生以下： **5分以上** ← **バックになる可能性が高い**
- ・ 同一クラスの途中に予備枠（Vacant）は設けない。



- **予選のスタート**
 - **各ヒートのコースのレベルは可能な限り同等とする。**
 - 各ヒートは60名以下。
 - 20名未満の場合は単一ヒートでもよい。
国際大会において、以前は予選のヒートが事前にわからないようにしていたが、演出効果を高めるために、事前に公開する流れのようである。したがって、予選のヒートは事前に公開してもよいし、公平性を高めるために事前公表しない運営をすることもかまわない。事前公開しない場合は、ライブ配信でスタート前にヒートが漏れてしまうことのないように注意する。
 - **スタート方法は、**
 - ヒート数と同じ数だけレーンを用意して、同時にスタートする。
 - 1つのレーンから、ヒートの交互にスタートする。
- **予選の順位により、A決勝、B決勝、C決勝。**
- **決勝は、予選順位の逆順（同順位はくじ引き）、ヒートの番号順。**
- **決勝のスタートリストは 1 時間前までに公表する。（予選終了後、速やかに）**
- **予選で失格または出走しなかった者も下位ランクの決勝に出走できるが、順位がつかない。**



【特徴】

- ・ マス・スタートとする。
- ・ チーム全体として、同じコースを走る。
- ・ 事前にコースパターンや組み合わせがわからないようにする。
- ・ 走区によって距離や難易度を変えてもよいが、並びは全チーム同じにする。
- ・ チェンジオーバーを適切に行うのは、各チームの責任。
- ・ 着順判定の係員または機器を設置する。
- ・ 繰り上げスタートになったチームは、正規にチェンジオーバーできたチームより後順位となる。



- **リレー競技の場合などに、開催することを想定。（テクニカル・ミーティング）**
 - 主催者が開催する。
 - **イベントアドバイザーが進行または監督する。（出席する。）**
- **競技に関する情報（スタート・リスト、輸送、ブレイクイン 3 からの変更、天気予報等）を提供**
- **質問を受け付ける**

- **競技性を確保したオリエンテーリング・コースを設定するのに適している場所**
オリエンテーリング競技の本質を損なわないこと、競技の公平性を保証すること、が大切。
ただし、国内で新規のトレインを開発していくことは、困難であろう。
- 過去のトレインを使用する場合は、
 - **可能な限り長期間利用されていないことが望ましい。**
※ 全日本大会では、実施基準で具体的な期間を定めている。
 - 前回とコース設定が類似しないようにする。
 - 地図は最新にする。（前年の同じ季節またはそれ以降に調査する。）
 - **過去の地図を公表する。**（公平に情報を提供する。）
- **大会の開催が決まったら、速やかにクローズする。**
- **自然保護、営林、狩猟等の権利を尊重する。**



- 地図図式に準拠して作成する。
 - 逸脱する場合はEAの同意が必要。必要に応じて、EAは地図委員会と協議する。

- 縮尺

ロング・ディスタンス	ISOM 1:15,000 (高年齢／年少者クラスは 1:10,000 or 1:7,500)
ミドル・ディスタンス、リレー	ISOM 1:10,000 (高年齢／年少者クラスは 1:10,000 or 1:7,500)
スプリント	ISSprOM 1: 4,000 (高年齢／年少者クラスは 1:4,000 or 1:3,000)

高年齢はおおよそ40歳以上

年少者はおおよそ18歳以下

視力の問題から大きな縮尺を用いることが推奨

- 1:10,000 の地図では、記号を150%に拡大。
- 記号の大きさは「地図図式」の±5%まで許容。
- 公園等で行うミドル・ディスタンス競技では、ISSprOMを用いてもよい。
- 逸脱する場合の注意：
 - ロング・ディスタンス競技で1:10,000とする場合も、1:15,000で表せないほど詳細にしないこと。
 - 「地図図式」にない記号、「競技規則」にない適用は、地図およびブレティン3 に記載する。



- 地図に間違いまたはトレインに変化があった場合、競技に影響があるなら、重ね刷りする。
- 地図は水分や損傷に耐えうるものにする。
- 過去の地図があれば、ブレティンで公表または提示する。
- 競技当日は、主催者が許可するまで、競技者およびチームオフィシャルは競技エリアを記した地図を使用してはならない。
- 競技者が必要とする以上に、大きいサイズにしてはならない。



- 『IOF 地図図式印刷とカラー定義』に準拠する。
- オフセット印刷が基本。
 - 同等の品質が得られるのであれば、プリンタ印刷（インクジェット、レーザー）の地図も可。
- プリンタ印刷の注意：
 - 使用する用紙とプリンタの組み合わせを十分にテストすること。
 - 1:15,000 の縮尺では、細かい線の判読性を十分に確認すること。
- 混色処理（透明化処理）について：
 - 特色印刷と同等の重ね印刷効果を得るため。
 - テレインの特性に応じて施してもよい。（必須ではない。）



- オフセット印刷の地図および既存地図に、コースをプリンタ等で追加印刷する場合：
 - コントロール円のずれのないことを十分に確認する。

地図の判読性を向上させるための工夫

- プリンタ印刷でのパープルの扱い：
 - 色順序で、パープルを黒、緑、茶色の下になるように設定する。
 - 透過処理を行う。
 - スタート（701）、コントロール（703）、結合線（705）、フィニッシュ（706）、立入禁止の境界線（708）、横断点（710, 710.1）、給水所（713）
 - パープルを不透過とし、地図記号の上になるようにする。
 - 地図配布場所（702）、コントロール番号（704）、誘導区間（707）、立入禁止区域（709）、横断区間（710.2）、通過禁止のルート（711）、救護所（712）、特設の建造物もしくは閉鎖区域（714）
- コントロール番号の数字を白抜きにすることも有効。地図の判読を妨げないように注意する。



- コントロールの円の中心は、
 - 点状特徴物 …… 記号の中心
 - 線状・面状特徴物 …… コントロールの置かれた位置
- スプリント競技で、線状特徴物の中心でない位置に、コントロールを置く場合：
 - 現地と同程度、コントロール円の中心をずらして表記してもよい。
特に通行不能の線状特徴物の片側に設置する場合は推奨。
- 特徴物のどちら側にコントロールが置かれているかを強調することが有益な場合：
 - 現地以上に、コントロール円の中心をずらして表記してもよい。

- **オリエンテーリング競技の本質を実現するコースを提供する。**
 - **競技者のナビゲーション技能、集中力、および走る能力が試される。**
 - **すべてのコースが様々なオリエンテーリング技術を要求する。**
- **『IOF フット・オリエンテーリング競技規則』の以下の付則にしたがってコースを設定する。**
 - **「コース設定の原則」(付則2)**
 - **「競技の構成」(付則6)**

以下は適用しなくてもよい。

- スプリント競技において、全コントロールを有人とすること。
- スプリント競技において、会場に観客やメディアのためのサイトを設けること。
- ミドルおよびロングディスタンス競技において、スタートを会場とし、コースの途中で会場付近を通すこと。
- スプリントリレーにおいて、最終走者を女子とすること。
- 競技者が地図を取るのをスタートゲートを出てからとすること。



- コース・プランニングの目的
 - 要求される能力を試すために適切に設計されたコースを、競技者に提供すること
 - 結果が、競技者の技術的・体力的能力を反映するようであってはならない
- コース・プランニングの大原則
 - 走りながらナビゲーションするというフット・オリエンテーリングの独自の特徴
 - 競技の公平さ
 - 競技者の楽しみ
 - 野生生物および環境の保護
 - マスコミおよび観客のニーズ
- コース・プランナーの心得
 - テレインを知る
 - 適切な難易度に設定する
 - 公平なコントロール設置位置を使う
 - 十分に離れた場所にコントロールを置く
 - 複雑すぎるルート選択は避ける
 - 体力的に過度の負荷とならないコースとする

・ 競技のコンセプトを理解してコースを設定することが肝要。

競技形式	スプリント競技	ミドルディスタンス競技	ロングディスタンス競技	リレー競技	スプリントリレー	ノックアウトスプリント
コントロール	技術的に容易	一貫して技術的に難度が高い	技術的に難度の高いものを含む	技術的に難度の高いものを含む	スプリント競技と同じ	スプリント競技と同じ
ルート選択	難しいルート選択で、高い集中力を要求	中小程度のルート選択	広域のルート選択を含む重大なルート選択	中小程度のルート選択	スプリント競技と同じ	スプリント競技と同じ
走行タイプ	非常に高速度	高速度であるが、トレインの複雑性への対応を要求	体力を要求。持久力とペース配分の判断力を要求	高速度。同一のコントロールかどうかかわからない他の競技者との接近	スプリント競技と同じ	スプリント競技と同じ
トレイン	非常に走りやすい公園、街（街路・建物）。走りやすい森林を含んでよい。観客がコースに立入可能	技術的に複雑なトレイン	ルート選択の可能性が高く、体力的にタフなトレイン	複数のルート選択が可能で、適度に複雑なトレイン	スプリント競技と同じ	スプリント競技と同じ
地 図	ISSprOM 1:4,000が基本 高齢者クラスは 1:4,000 or 1:3,000	ISOM 1:10,000が基本 高齢者クラスは 1:10,000 or 1:7,500	ISOM 1:15,000が基本 高齢者クラスは 1:10,000 or 1:7,500	ISOM 1:10,000が基本 高齢者クラスは 1:10,000 or 1:7,500	スプリント競技と同じ	スプリント競技と同じ
スタート間隔	1分	Eクラス 2分以上 Eクラス以外 1分	Eクラス 2分以上 Eクラス以外 1分	マススタート	リレー競技と同じ	予選 1分 ノックアウト マススタート
優勝設定時間 (Eクラス)	ME 12～15分 WE 12～15分	M21E 30～35分 W21E 30～35分	M21E 90～100分 W21E 70～80分	ME 合計135分 WE 合計120分	各走区 12～15分	予選 8～10分 ノックアウト 6～8分
	速く見やすくわかりやすい競技形式で、多くの観客の前で行う見せるオリエンテーリングである。	適度な持続時間にわたって、速く正確なオリエンテーリングが要求される。小さなミスが致命的となる。	オリエンテーリングのすべての技術とともにスピードと体力・持久力が試される。	3人によるチーム競技で、直接対決で最初にフィニッシュした者が勝者となる。観客にも競技者にもエキサイティングである。	男女混成の4人によるチーム競技で、街地で行われ、直接対決で最初にフィニッシュした者が勝者となる。	予選の後、マススタートで直接対決のノックアウトラウンドで複数回競う。狭いエリアで行うことができ、観客にも競技者にもエキサイティングである。

- **コース距離：** スタートからコントロールを経由してフィニッシュまでの直線距離
(物理的に通行不能な妨害、立入禁止エリア、マークト・ルートは除く)
- **登距離：** 最善のルートに沿ったときの登距離

- 個人競技において、コントロール順を競技者ごとに異なる並びにしてもよい。 ← 追従を回避するため
 - 全体としては同じコースとする。 ← コース設定ミスが発生しやすいので注意
- リレー競技では、コントロール順はチームによって別々の並びにする。
 - 全体としては、全チームが同じコースを走る。
 - 走区によって距離や難易度を変えてもよい。（長 - 短 - 長 など）
 - 各走区で想定するトップタイムの合計は規定通りとする。
 - 走区ごとの距離の並びは、どのチームも同じにする。
- 予選レースの各ヒートのコースは、できる限り同じ距離で同じ水準とする。

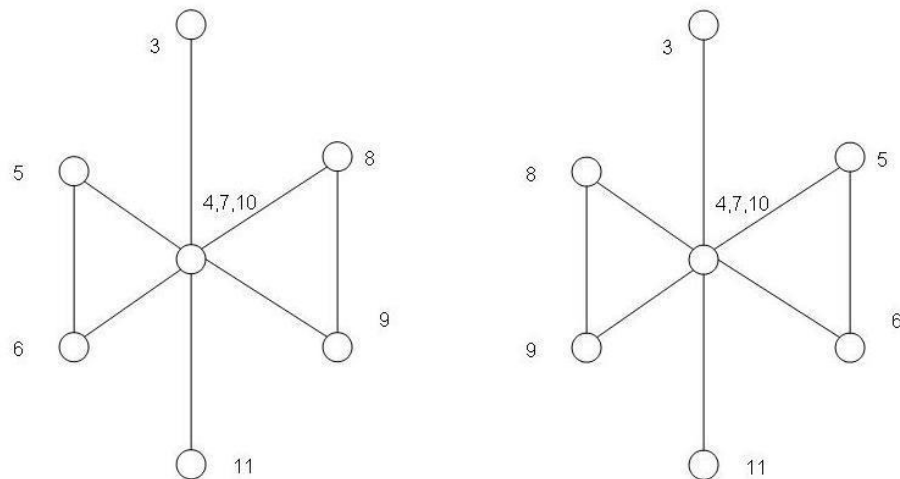


バタフライ・ループについて

参考

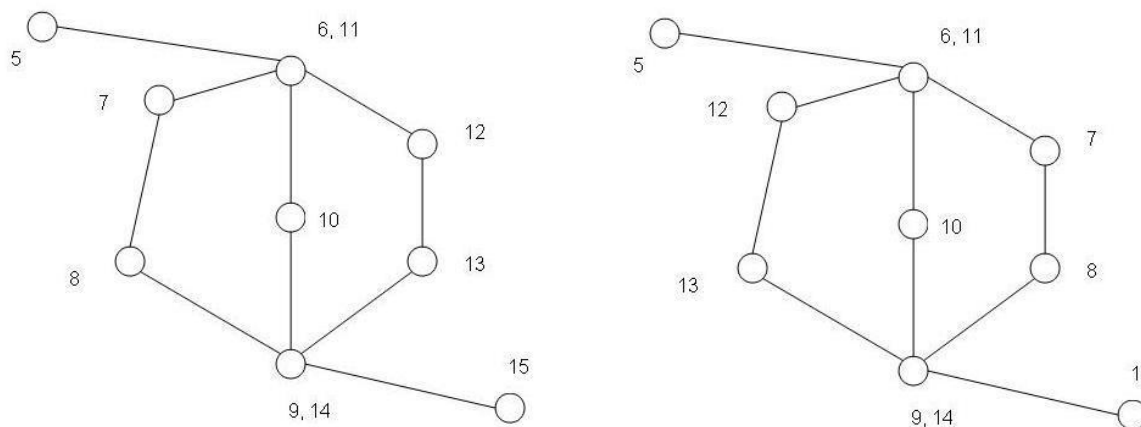
- 大きなバック／グループが形成されることを防ぐ。
- 自力で走破するというコンセプトを担保することで、公正性を確保する。
- ロング・ディスタンス競技において有効。

スタンダードなバタフライ



ファイタイプのバタフライ

(ϕ phi ギリシャ文字)

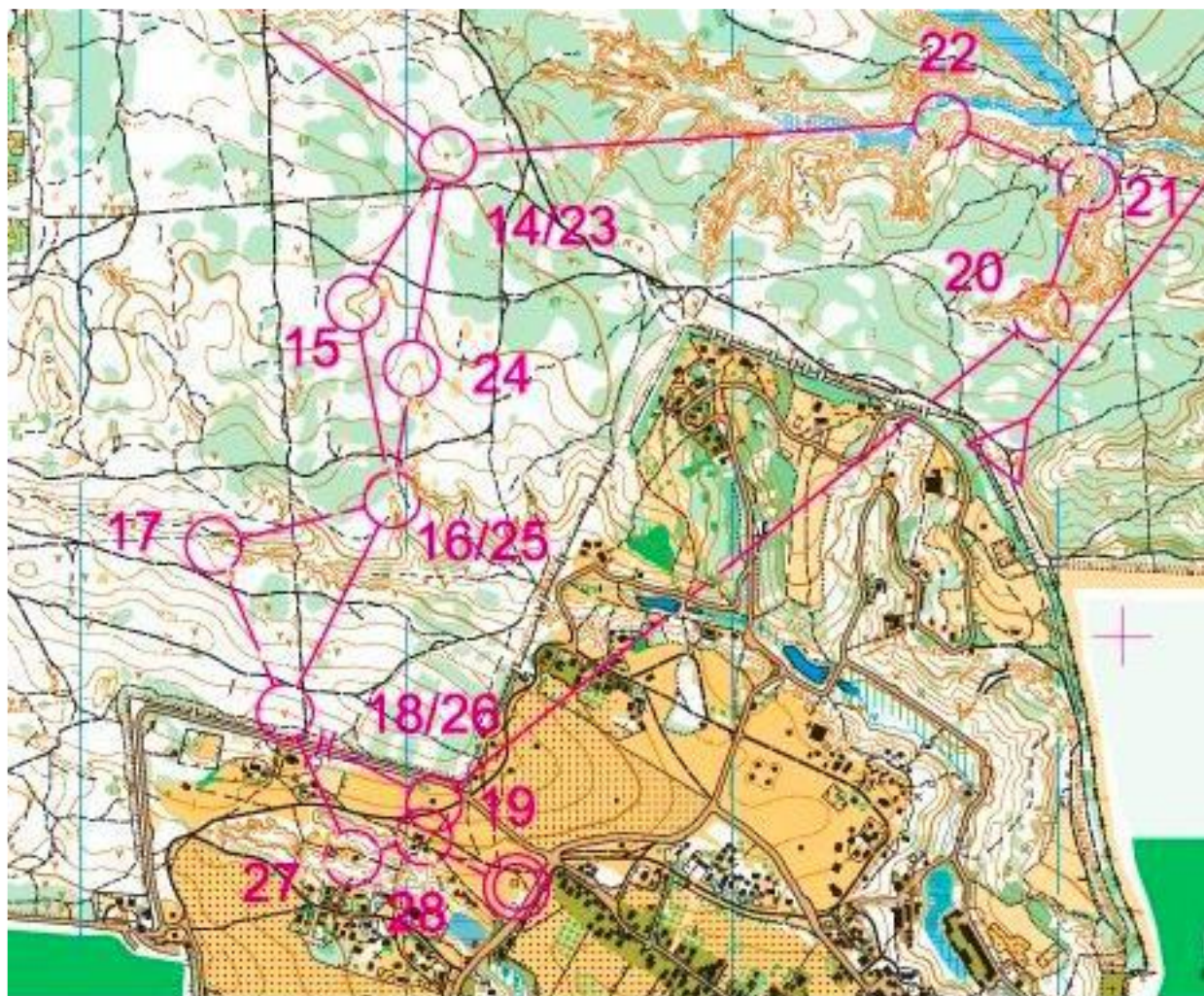
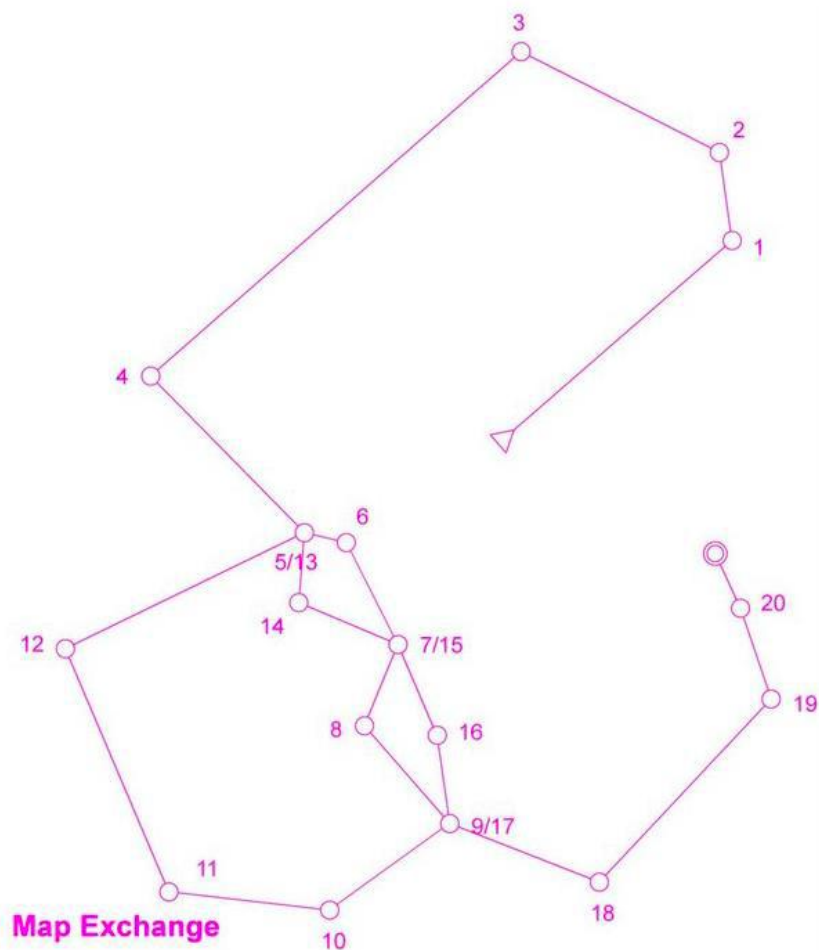




バタフライ・ループの事例

参考

- すべてのパターンの並びを確認すること。
- 前半すぎてもいけないし、最後の最後でもよくない。





- ロング・ディスタンス

IOF規則2024年版では、男女の優勝設定タイムが同じとなった。

M21E	88-92分	M60A	50分	W21E	88-92分	W60A	50分
M20E	70分	M65A	50分	W20E	70分	W65A	50分
M21A	80分	M70A	50分	W21A	80分	W70A	50分
M21AS	60分	M75A	50分	W21AS	60分	W75A	50分
M35A	70分	M80A	45分	W35A	70分	W80A	45分
M40A	65分	M85A	45分	W40A	65分	W85A	45分
M45A	60分	M90A	40分	W45A	60分	W90A	40分
M50A	55分	M20A	60分	W50A	55分	W20A	60分
M55A	50分	M18A	50分	W55A	50分	W18A	50分
		M15A	40分			W15A	40分

- ミドル・ディスタンス

Eクラス以外は、ロング・ディスタンスとのバランスで設定する。

M21E	30-35分	W21E	30-35分
M20E	20-25分	W20E	20-25分

- スプリント

ME	12-15分	WE	12-15分
----	--------	----	--------

- リレー

優勝チームの想定タイム。

以前は各走区で最も速い者の合計タイムだったが、IOF規則2023年版から優勝チームの想定タイムに改正された。

Mクラス	135分 (3人)	Wクラス	120分 (3人)
------	-----------	------	-----------



- JOA の作成する『オリエンテーリング指導教本』を参照して、各クラスに合った技術要求度のコースを設定する。
特に低年齢層および初心者のクラスでは、重要である。
- 年齢別競技者の相対速度を示すIOF による『WMOC（世界マスタース選手権）のガイドライン』は有用である。
特に高齢者は速度の低下が大きいので、最高齢クラスのコースには配慮が必要である。

高齢者は筋力の衰えなどから、けが防止のための配慮も重要。
急斜面での下りを避ける など



オリエンテーリング指導教本は、「初心者導入編」、「ナビゲーション技術編」「ルートプランニングとナビゲーションの実行編」の3編から構成されている。

- 「初心者導入編」

未経験者にオリエンテーリングを体験し、楽しんでもらう導入プログラムと指導上の留意点

- 「ナビゲーション技術編」

オリエンテーリングを継続的に行おうとする愛好者・競技者がステップアップすべき技術とそのため
の練習方法が書かれています。

- 「ルートプランニングとナビゲーションの実行編」

習得した技術を競技の中でどう使いこなすかを考える上で重要なプランニングを中心に書かれています。

• ロング・ディスタンス

クラス	M35	M40	M45	M50	M55	M60	M65	M70	M75	M80	M85	M90
スピード	1.06	1.04	1.02	1.00	0.92	0.84	0.78	0.71	0.61	0.50	0.39	0.26
優勝タイム(分)	70	65	60	55	50	50	50	50	50	50	50	50
コース距離	1.00	0.91	0.82	0.74	0.62	0.57	0.52	0.48	0.41	0.34	0.26	0.18
クラス	W35	W40	W45	W50	W55	W60	W65	W70	W75	W80	W85	W90
スピード	0.86	0.84	0.79	0.73	0.69	0.65	0.62	0.55	0.43	0.33	0.23	0.14
優勝タイム(分)	55	50	45	45	45	45	45	45	45	45	45	45
コース距離	0.63	0.57	0.48	0.44	0.42	0.39	0.37	0.33	0.26	0.20	0.14	0.08

• ミドル・ディスタンス

クラス	M35	M40	M45	M50	M55	M60	M65	M70	M75	M80	M85	M90
スピード	1.06	1.04	1.02	1.00	0.92	0.84	0.78	0.71	0.61	0.50	0.39	0.26
優勝タイム(分)	30-35	30-35	25-30	25-30	25-30	25-30	25-30	25-30	25-30	25-30	25-30	25-30
コース距離	1.00	0.98	0.81	0.80	0.73	0.67	0.62	0.57	0.49	0.40	0.31	0.21
クラス	W35	W40	W45	W50	W55	W60	W65	W70	W75	W80	W85	W90
スピード	0.86	0.84	0.79	0.73	0.69	0.65	0.62	0.55	0.43	0.33	0.23	0.14
優勝タイム(分)	30-35	30-35	25-30	25-30	25-30	25-30	25-30	25-30	25-30	25-30	25-30	25-30
コース距離	0.81	0.79	0.63	0.58	0.55	0.52	0.49	0.44	0.34	0.26	0.18	0.11

• スプリント

年齢	35	40	45	50	55	60	65	70	75	80
男子	1.00	0.96	0.90	0.85	0.80	0.73	0.65	0.57	0.49	0.41
女子	0.86	0.81	0.75	0.69	0.64	0.58	0.53	0.47	0.42	0.37



～競技者の安全確保～

- 立入禁止や危険箇所には、地図上で表記して、現地でも標識（テープ）で示す。
- 交通量の多い車道を横断する箇所等には、係員を配置する。

～地権者や環境への配慮～

- 耕作地、民家等の敷地へは立ち入らないように、コース設定の上で配慮する。
- 必要に応じて、現地で明確に判断できないところは。標識（テープ）で示す。
（スプリント競技では、不注意で入りそうな箇所に標識（テープ）を施す。）

失格を未然に防ぐため、競技者を誘引しない配慮をする

- 標識（テープ）は、青と黄のテープまたはストリーマを推奨。

立入禁止／横断禁止等の地図記号は、競技規則で定めている。

- ・ 地図図式は、地図の表記に特化する。

ISOMとISSprOMで定義が異なる。

ISOM 520	立入禁止区域	ISSprOM 201	通行不能ながけ
ISOM 708	立入禁止の境界線	ISSprOM 301	渡れない水域
ISOM 709	立入禁止区域	ISSprOM 307	渡れない湿地
ISOM 711	通行禁止のルート (通行禁止のルートの上を横断することはよい)	ISSprOM 410	通行不能な植生
		ISSprOM 515	通行不能の壁
		ISSprOM 518	通過不能の柵または手すり
		ISSprOM 520	立入禁止区域
		ISSprOM 521	建物
		ISSprOM 529	通行不能の目立つ線状特徴物
		ISSprOM 708	立入禁止の境界
		ISSprOM 709	立入禁止区域
		ISSprOM 714	特設の建造物もしくは閉鎖区域



- 『国際コントロール位置説明仕様（ISCD）』にしたがって作成する。
- 地図の前面に貼付または印刷する。
- プレ・スタートまたはスタート・レーンで配布する。
 - 競技者が適当なサイズのディスクリプション・ケースを携帯できるよう、事前に大きさを公表する。
 - 異なるクラス間で共通のコントロールを使用しないなど、コースの予測が不可能であれば、事前に配布してもよい。
- 配布地点より前には公表しない。
- 初心者クラスでは、日本語での表記を併用する。

[「19章 スタート」を参照](#)

[日本語の読めない外国人参加者がいることにも留意して、記号と併記する](#)

- コントロール位置説明はできるだけシンプルにする。
 - 特徴物によっては、デフォルト・ポジションがある。
 - （基本的な特徴物を除いて）地図から読み取れる情報まで記載しない。

（例） こぶは頂点に、岩崖は下に設置するときは、G欄は利用しない。

（例）

1			●		1	頂点	
2			崖		1.5	下	

- 地図上で読み取れない情報については、補助的説明（F欄、G欄）を記載することが望ましい。
 - 特徴物の大きさ、方角、フラッグの位置など
 - 実寸表記できない特徴物、大きな尾根、沢などの線状特徴物では必須

競技の公平性を確保するように、慎重に設置する。

- コントロールには、明瞭な表示と通過証明の機器（パンチ）を設置する。
 - コントロール・フラッグ … 30×30cmの三角柱形、白とオレンジ（PMS165）
 - コントロール位置説明にしたがって、適切で明確な特徴物に置く。
 - 位置説明に記載された場所を視界に捉えたときに、フラッグが見えるように置く。

オリエンテーリングでは特徴物が目標物になる。

- 競技者を惑わすような近接コントロールは置かない。
 - フォレスト 直線距離で30m
 - スプリント 走行距離で25m、直線距離で15m
- 偶然性を排除する。
 - 地図から読み取れない情報、運による有利不利があってはならない。
 - 付近に人がいるかいないか、アタックの方向によって見え方が異なる、ドッグレッグ 等

- 多数の競技者が通過するコントロールには、パンチ台を複数設置する。フラッグは1つ。
- コードナンバーは、31以上で、2または3桁。 ← 4桁にすると電子計時システムが処理できない。
文字は白地に黒、高さは1.5～10 cm、線の太さは2mm以上
上下逆に誤読しかねないときは、番号に下線を引く。（161など）
- コントロールが遺失しないよう措置をとる。
 - 抜き取られる心配のある場所では、監視員を置くなどする。
 - フラッグが低すぎないようにする。（地表面から25cm程度が望ましい。）
 - 競技中に倒れたり、地面に沈み込んだりしないようにする。
 - 急斜面や軟弱な地盤では、フラッグとパンチ台を分離することが望ましい。
 - パンチ台を使用しない場合、フラッグとパンチは別々に吊るす。
- スプリント競技で、コントロール周辺で極端にスピードが落ちるような位置は、不適。



- 優勝設定タイムが30分を越えるときは、25分毎に給水所（飲用水）を置く。

<以下、推奨>

- 会場からスタートまで30分を越えるときは、スタートに給水を置く。
- 酷暑時は、スタートやフィニッシュに給水を置く。
- 酷寒時は、上着の搬送を行う。
- フィニッシュには救護所を置く。
- 医療施設と事前に連携をとっておく。
- 給水所の位置も特徴物になりうるので、地図上で正確に記載する。



- レース中に問題が発生した時、主催者は解決するために迅速にあらゆる努力をする。
 - パンチユニットの故障
 - コントロールのミス設置
 - 通路の閉塞 など
- 主催者は結果の公平性に対する影響を考慮して、必要な措置を講じる。
 - 不成立もありうる



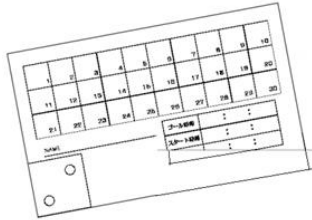
- 明瞭に通過証明ができること。
- IOFが認可した電子式パンチング・システム
 - EMIT,EMITタッチフリー
 - SportIdent (SI),SportIdent Air+
 - SFR
 - Learnjoy
- 事前に競技者が試す機会を設けることが望ましい。
特にタッチフリー方式を採用する場合
- それぞれの特徴をよく理解して、確実に運用できるシステムを採用すること。



パンチング・システム（例）

参考

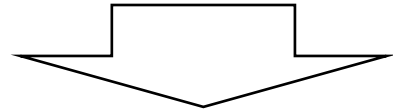
- 各々の特徴をよく理解すること。

	コントロールカード	パンチングデバイス	パンチしている様子
伝統的なパンチングシステム (ピン・パンチ)	耐水紙製のコントロールカード 	パンチ 	
EMIT	Eカード (e-card) 	コントロールユニット 	
SPORTident (SI)	SIチップ (SIカード) 	SIステーション 	



- 正しく通過証明を残すことは競技者の義務。
- 競技の完遂を証明できない競技者は失格。
 - コントロール・カードの紛失
 - コントロールの不通過
 - 誤った順番での通過
- 機器の故障に備えて、バックアップを用意する。
 - 複数設置、ピン・パンチの併用、ビデオ撮影 等
- 競技者に過失がない場合に限り、ビデオカメラや係員の目視による証拠が認められる。
 - 競技者に過失がないことが証明できなければ、失格となる。

- SI、SFR、Learnjoy の場合、
 - カードにはパンチの記録がなければ、ステーション側に記録されていても失格。
(競技者のパンチが速すぎてフィードバック・シグナルを受け取れなかった場合など)



- 競技者は所定のクレーム料を支払うことで、主催者にコントロールからバックアップ°を読み取るよう要求することができる。
 - ステーションに記録があれば、通過証明となる。料金は返金される。
 - ステーションに記録がなければ失格。料金は主催者が没収する。
- クレーム料は、大会参加費相当が妥当。



- **主催者が定めない限り、服装は自由。**
 - 地形や気象条件から身体を守るもの、環境を保護するもの、公序良俗に反しないもの 等
- **ナンバーカードは視認性がよく、競技のじゃまにならない大きさ**
 - **サイズ 25cm×25cm以下**
- **原則として、競技に必要なもの以外は携帯しない。**
 - **地図、コントロール・カード、コンパス、（時計）**
- **競技者の安全のためのもの、観客サービスになるもの、競技力の向上に役立つもの**
- **ナビゲーション目的など不正な使用は許されない。**
 - **GPS機能を有するデバイス**
 - **ホイッスル、携帯電話**
 - **トラッキング・デバイス、GPS データ記録装置、ビデオカメラ 等** ← **主催者が制限できる**

- 個人競技 インターバル・スタート
リレー競技 マス・スタート
複合レース競技の最終レース チェイシング・スタートでもよい
- 予選・決勝レース競技
 予選の最終スタートから、決勝の最初のスタートまで、2.5 時間以上の間隔をあける
 競技会の進行上の事情で困難な場合は、短くしてもよい（EAの承認、ブレティン3 で告知）
- プレ・スタート方式を採用してもよい。
 - プレ・スタートから先へは、スタートする競技者しか入ることはできない。

- **スタート地区に時計を設置する。** ←競技者が正しくスタートレーンに入るため
(現在時刻なのか、入るべき競技者のスタート時刻なのか、説明板で示す。)
- **スタート地点に時計を置くことが望ましい。** ←競技者が現在時刻を確認するため
(レーンの数が多い場合など運営負担になるので必須とはしない。)
- 後続の競技者から、前にスタートした競技者の出走方向が見えてはならない。 **競技の公平性のため**
(地図、コース、ルート選択が事前に知れてはならない。)
 - スタート地点からスタート (△) までマークルートにする。
 - プレスタート方式を採用する。

スタート地点 … 計時を開始する地点

スタート (△) … オリエンテーリングを開始する地点

- **スタート (△) には、パンチ器具のないコントロール・フラッグを設置する。**

- スタート時刻と同時（またはそれ以降）に地図を取ってスタートする。
 - 競技者は自分自身の責任で正しい地図を取る。
 - 地図の裏面等に、確認できる情報（スタート番号、名前またはコース等）を表示。
- 地図をあらかじめ配布する方式をとる場合は、スタートラインからスタートする。
- スタート時刻まで地図を見てはならない。ただし、M/W18以下のクラスでは、スタートの1分前に地図を見られるようにすることが望ましい。 ←読図能力が未熟であるため
- スタート前の選手チーム・オフィシャルを、隔離ゾーンに待機させてもよい。 ←公平性のため
 - レースの情報を得られないようにする。
 - 主催者が、隔離ゾーンで待機させる時間を定める。入る締切時刻を設けてもよい。
 - 適切な便宜（トイレ・給水・雨除け等）を提供することが望ましい。
 - 隔離ゾーンで通信機器を使うことは許されない。



海外の主要大会でのスタート

参考

- 競技者は、決められた時刻通りにスタートしなければならない。
- 主催者側も、競技者が適切にスタートできるように運営することが重要。



世界選手権など、海外の主要な大会では、

- スタート地点では、スタートする選手の名前が読み上げられ掲示されている。
- スタート管理係（マーシャル）がいて、選手は背中を叩かれてスタートしている。
- 世界選手権のような大会では、スタートレーンの数は1つか、または男・女で2つ。
- 地図は腰くらいの高さの台の上の置かれており、無理のない自然な姿勢で見ることができる位置に時計が置かれている。
- スタートチャイマーを使用している。（予鈴は4秒前から5秒前からなど、特に定まってはいない。）
- ビデオ撮影がされている。

日本の実情においては、上記のようなスタート設営をすることは困難なので規則で規定してはいないが、国際大会にできる限り倣った運営をすることが望ましい。



- スタート時刻に遅れた競技者も、スタートすることを許される。
- スタート係員の指示にしたがって、可能な限り速やかにスタートする。
 - 正規のスタート時刻にスタートする競技者に影響がないようにする。
 - スタート係は、実際にスタートした時刻を記録する。
- 自分自身の過失によりスタート時刻に遅れた者は、正規のスタート時刻から計時する。
- 主催者の過失によりスタート時刻に遅れた者は、実際のスタート時刻から計時する。

【推奨される方法】

- マス・スタートまたはチェイシング・スタートの場合：

即座にスタートさせる。

- タイムスタートの場合：

スタート間隔の中ほど（1分間隔なら30秒くらいのところ）でスタートさせる。

コースパターンが同じ複数の競技者がほぼ同時にスタート地区に遅刻して到着したときは、後に到着した者は次のスタート間隔まで待たせて、同時にスタートすることのないようにする。



- 距離または時間を公表する。**（各競技エリアとフィニッシュ会場の正確な位置）**
- スタート地区までの距離が長い場合：
 - 30 分以上を要する場合、給水を用意することが望ましい。
 - 高年齢層、低年齢層（小学生以下）に配に特に配慮する。
輸送／同伴、スタートを分ける など
- 寒冷時期は、防寒着を輸送するなどのサービスが望ましい。



- ・ チームのメンバー同士がタッチすることで行う。
前走者が次走者の地図を取って受け渡す方法でもよい。
- ・ 正しくかつ適時にチェンジオーバーをすることは、競技者自身の責任である。
 - ・ 主催者がコールを逸しても、責任は競技者。
 - ・ チェンジオーバーは、次走者が前走者のフィニッシュが把握できるように、レイアウトする。
- ・ チェンジオーバーできなかったリレー・チームの、後の競技者をマス・スタートさせてもよい。
- ・ いったん失格を承諾したら、それ以降の競技者はスタートできない。

- **フィニッシュまでは、テープ、ロープあるいは柵によって誘導する。
最後の20mは直線とする。下り勾配は避けることが望ましい。**
- **フィニッシュ・ラインの幅：**
 - **インターバル・スタート 1.5m 以上**
 - **マス・スタート／チェイシング・スタート 3m以上****フィニッシュラインは入ってくる方向に対して直角にする。**
- **フィニッシュの正確な位置が、競技者から明瞭に見えるようにする。**
高速で走る競技者にとって、危険のないように設置する。
- **フィニッシュでは、コントロール・カードと（主催者からの要求があれば）地図を提出する。**
地図を提出できない場合、不正の可能性があるので失格になりうる。



- **フィニッシュ・タイムの計時：**
 - **競技者の胸がフィニッシュラインを横切ったとき**
 - **フィニッシュラインでパンチしたとき**
 - **計時用の光ビームが使われている場合は、ビームを競技者が横切ったとき**
 - **競技者が携行しているトランスポンダーがフィニッシュラインを横切ったとき**
- **マス・スタートまたはチェイシング・スタートの場合：**
 - **着順判定の係員（または機器）が、最終順位を判定する。**
 - **裁定委員の1人がフィニッシュラインにいたことが望ましい。**
- **リレー競技では、走区毎の計時よりもチェンジオーバーが優先。**
パンチング・フィニッシュはフィニッシュラインの後方で行う。

- タイムは秒以下を切り捨てとする。(時間／分／秒または分／秒)
 - 同じクラスの競技者の相対的タイムを0.5 秒以上の正確さで計時できるシステムを使用する。
 - インターバル・スタート競技では、競技者がフィニッシュラインを走り抜けてフィニッシュできるよう、電子式フィニッシュ計時システムを使用することが望ましい。
 - 正副2 つの独立した計時システムを、競技の開始から終了まで使用することが望ましい。
-
- 『スタート／フィニッシュおよび計時に関するハンドブック』を理解し、公正な計時を行う。



- 競技者の安全および運営の事情により、競技時間を設定してよい。
 - Eクラスは優勝設定時間の150%以上、Aクラスは200%以上、10 分単位に切り上げ。
 - ロングディスタンス競技：
優勝設定時間が60 分以下のクラスは、一律120 分としてもよい。B クラスは120 分。
 - ミドルディスタンス競技およびスプリント競技：
ロングディスタンス競技との見合いで適切な時間を設定する。
一律に90 分あるいは60 分など。
- 競技時間をオーバーした者は、順位外となる。



・ スタート、フィニッシュの運営や、計時に関するノウハウを集めたもの

1. 計時についての基本事項
2. 電子パンチシステムについて
3. スタートの運営
4. フィニッシュの運営
5. 計算センターの運営
6. 計時システムの誤差
7. Mulka2 の使い方
8. 光電管を利用した計時
9. トラブルの原因、事例
10. 最後に

スタート／フィニッシュおよび計時に関する ハンドブック

改訂2版

はじめに

オリエンテーリング大会を開催するときに、スタートとフィニッシュを適切に運営し、正確な計時を行うことは重要です。そのためには計時の基礎を学ばなければならないのですが、計時システムについてまとめたものはあまりないかもしれません。

大学クラブなどでは細々と知識が受け継がれていることと思いますが、系統から外れる者にとっては基礎技術を学ぶ場がないとも聞きます。この冊子では基礎的な知識をまとめてみました。

目次

1. 計時についての基本事項
2. 電子パンチシステムについて
3. スタートの運営
4. フィニッシュの運営
5. 計算センターの運営
6. 計時システムの誤差
7. Mulka2 の使い方
8. 光電管を利用した計時
9. トラブルの原因、事例
10. 最後に

この冊子では「個人戦」、「EMIT」システム、SI システムを用いた基本的な計時、「Mulka2 システムの利用」という、基本的な考え方を前提に話を進めます。EMIT の特殊な計時やリレーについては別途お問い合わせください。



- **フィニッシュ地区に救護所を設置し、必要な備品を用意する。**
- **救護担当のスタッフが常駐していることが望ましい。**
- **『ナヴィゲーションスポーツのための安全ガイド』をよく理解すること。**
- **フィニッシュから会場までの誘導は、高年齢層、低年齢層（小学生以下）に配慮する。**
- **距離または時間を公表する。**

競技者の安全を確保するための知識をまとめたもの。

救護部門備品 絶対必要	大型資材	ガーゼ・包帯・固定具・器材類	消耗品	薬品類	薬品名	その他
	テント、横幕付(部屋) 毛布	はさみ ピンセット 毛抜き 伸縮包帯(各種・各サイズ) バンソウ膏各種 ガーゼ各種 滅菌ガーゼ各サイズ カットパン各サイズ テーピング用テープ各サイズ	ゴミ袋(大・小) ポリ袋 ペットボトル(飲料用水) 脱脂綿 綿棒 ティッシュペーパー ウェットティッシュ 手袋(非滅菌Mサイズ) 雑巾 タオル	外用薬 虫さされ かぶれ・かゆみ止め 抗生物質軟膏 消毒薬 冷却剤 痛み止め 目薬 鎮痛剤シップ	キンカンなど ムヒ・レスタミンなど ゲンタシンなど マキロンなど コールドスプレー アンメルツなど クラビット点眼など アドフィードなど	病院の電話番号 消防署・警察連絡先 筆記用具 メモ用紙
あったほうが良い	シーツ ポリタンク(ふつうの水) バケツ 担架 ビニールシート 銀マット デコラ机 いす 案内看板 クーラーボックス	爪きり ルーペ ペンライト 血圧計 聴診器 体温計 眼帯 三角巾	アルコール綿 水 使い捨てカイロ	内服薬 痛み止め 抗アレルギー薬 抗生物質 外用薬 ステロイド入り軟膏 洗浄用生理食塩水 消毒用アルコール	ボルタレン ブスコパン ボラミン セレスタミン セフゾン リンデロンなど 器具消毒に	ビニールテープ 布ガムテープ カッターナイフ 記録用紙
あればよりよい	車椅子 松葉杖 携帯用酸素 アンビューセット 挿管セット 除細動器(AED) すのこ	点滴セット 注射器各サイズ 針各サイズ エラスター針各サイズ 顯血帯 三方活栓 延長チューブ メス 縫合器 ギブスシーネなど固定具		注射薬 救急薬 麻酔 点滴本体 内服薬 胃腸薬 総合感冒薬 その他 外用薬 ニトロ貼付剤 ホクナリンテープ	ボスミン 硫酸アトロピン ブスコパン注 レスカーミン注 ソルメド注 20%ブドウ糖 1%メピバカイン20ml ラクテックG500ml 生理食塩水500ml アルサルミン ピオフェルミン ロベミン ブリンペラン PL顆粒 ニトロール 心疾患用 喘息用	薬の本 救急対策の本 紹介状用紙

ナヴィゲーションスポーツのための安全ガイド

公益社団法人 日本オリエンテーリング協会

(2019年版 改訂4版)





- 暫定的な成績（速報）を掲示する。（フィニッシュ、会場）
- 予選・決勝レースの予選の成績 最終競技者の競技時間終了後30分後以内
- 公式成績 最終競技者の競技時間終了後4時間以内
当日中にインターネットで公開

- インターバル・スタート： 同タイムの競技者は同順位。
- マス・スタートまたはチェイシング・スタート： フィニッシュした順に順位が決まる。
- リレーで繰り上げスタートになった場合：
繰り上げスタートになったチームの順位は、チーム全員のタイムの合計による。
繰り上げスタートになったチームは、正規にチェンジオーバーできたチームより後の順位。
- 制限時間を超過した競技者およびチームには順位外となる。
- スタートからフィニッシュまでの総区間のタイムで計時する。
 - 事前に公表した場合を除き、一部のレッグを除いて計算してはいけない。



- **公式成績表の記載事項：**
 - **参加した競技者すべての記録**（JOA提出用の成績表には、競技者登録番号も）
 - クラスごとの参加者数（未出走者を含む）、コース距離、登高、記録（順位、氏名、所属、タイム）
 - **リレー競技では、チームとしての記録、各走区の競技者氏名、走区タイム、コースパターン**
 - 参考となる記録（同一クラスの当日申込者のタイムなど）
- 同順位の場合はスタート順とする。
- 順位のつかない競技者も、理由とともに掲載する
 - コントロール不通過者
 - コントロール・カード紛失
 - 競技時間オーバー
 - 棄権 …… 競技者がフィニッシュにおいてその旨を申告した場合
 - 失格 …… 規則違反
- 不出走者（DNS）も掲載する。
- イベントアドバイザーの承認が必要。



- JOA は、公認大会の成績を記録として認定する。
- 認定された記録は、エリートクラス出場資格、年齢別ランキングなどの基礎データとなる。

<予選・決勝方式の場合>

- 決勝レースの記録を認定する。
- B決勝以下の記録は、A決勝より下位に位置づける。
 - マス・スタートあるいはスタート時刻を定めずに行った場合は、認定の対象外。
- 予選の記録は公認記録としては扱わない。記録としては残す。



- **主催者は表彰式を行い成績上位者を表彰する。**
- 全日本大会、公認大会においては、JOAがメダルと表彰状を授与



- オリエンテーリング競技会に関わるすべての者は、公平で誠実に行動する。スポーツマンらしい態度と友情の精神を持つ。
- 競技者は、他の競技者、オフィシャル、ジャーナリスト、観客および競技エリアの住民に、敬意を払う。テレイン内ではできる限り静粛にする。
- 競技中に他の競技者やチーム・オフィシャルから助力を得たり、他の競技者を助けたりすることを禁止する。
 - 救護所における手当ては、助力に当たらない。
 - 観客の行動は制御できないことに留意。
- 負傷した競技者を救助することは、すべての競技者の義務である。
 - JOAからのE権救済措置を受けることがある



＜大会運営者＞

- 競技エリア、トレイン、コースに関する秘密を保持しなければならない。
- テレイン内にいる時は、競技者に影響を与えてはならない。

＜競技者＞

- 事前に、競技トレインの調査や練習、公表された以上に情報を入手することを、試みてはならない。
- 他の競技者より実質的に有利な立場にある者は、参加を認められない。
→ 当該トレインまたは地図を熟知している など
- フィニッシュラインを越えたら、トレインに戻ることはできない。
- 棄権した場合も、他の競技者に影響を与える行動をとってはいけない。

＜その他＞

- チーム・オフィシャル、競技者、メディア取材者および観客は、指定されたエリアから出てはいけない。



- ドーピング行為は絶対に許されない。
→ ドーピング行為に関わった者は厳重に処罰される。
- 競技者は、公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構から、TUE（治療使用特例）の承認を受ける責任がある。

以下の規則およびガイドを参考にされたい。

- 『アンチ・ドーピング規程』
- 「PLAY TRUE BOOKアスリートガイド」
- 「ドーピング検査ガイド」

JOAアンチ・ドーピング委員会 編
日本アンチ・ドーピング機構 編
日本アンチ・ドーピング機構 編



- 公認大会の要項／プログラムに、ドーピング検査注意喚起文を掲載することを義務づけている。

水色太文字：

変更不可

オレンジ下線文字：

団体毎に使用している同じ意味合いの言葉に変更可

その他：

必要に応じ、文体の変更、文字数の削除等可

《大会要項掲載文ひな形》

- 本競技会は、**日本アンチ・ドーピング規程に基づくドーピング検査対象大会**である。
- 本競技会参加者は、競技会にエントリーした時点で**日本アンチ・ドーピング規程にしたがい、ドーピング検査を受けることに同意したものとみなす。**
- 未成年者**である本競技会参加者のエントリーにおいては、上記のドーピング検査の実施について親権者から同意を得たものとみなす。
- 本競技会参加者は、本競技会において行われる**ドーピング検査を拒否又は回避した場合、検査員の指示に従わない場合、帰路の移動等個人的諸事情によりドーピング検査手続きを完了することができなかった場合等は、ドーピング防止規則違反となる可能性**がある。ドーピング防止規則違反と判断された場合には、日本ドーピング防止規程に基づき制裁等を受けることになるので留意すること。
- 日本アンチ・ドーピング規程の詳細内容およびドーピング検査については、公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構のウェブサイト (<http://www.playtrueJapan.org>)にて確認すること。

《最低限記載していただきたい文言》

- 「本競技会**は、日本アンチ・ドーピング規程が適用されます。**」



- **規則に違反したり、それにより利益を得た競技者は、失格となりうる。**
 - 立入禁止区域への進入
 - 通行禁止のルート
 - 明らかな追走などの不正手段
- **罰則には以下がある。**
 - 失格
 - 一定期間の競技会出場停止 …… ドーピング違反など
- **競技に危険が生じた場合、主催者は競技を中断、延期、中止しなければならない。**
- **競技に著しい不公平が生じた場合、主催者は競技を無効（不成立）にしなければならない。**



＜競技者の安全＞

- 主催者は、医学的に競技者が危険な状態にある時、競技をストップさせることができる。
 - 極度の疲労など

＜周囲の安全＞

- 公園は一般市民の活動の場であり、高速で走行する競技者は危険な存在になりうる。
 - 子供、老人、身体障がい者
- 他のイベントや、バードウォッチングなどとのトラブルを防ぐことも必要。
 - 運営者はコース設定に配慮する。
 - 競技者は行動に注意する。





- オリエンテーリング競技に関わる賭博に関与することを禁止する。
 - 支援、宣伝、買収行為
 - 八百長をすること、結果を操作することになるすべてのこと、利益を得るために手を抜くこと。
賄賂を授受すること、内部情報を漏らすこと など

- 規則を遵守することは、主催者と競技者の両者に課された責務である。
- 競技会が不成立になること、競技者が失格になることは、不幸なことである。不成立または失格を決定する際には、慎重な判断が必要である。

＜競技者が規則違反をした場合の原則的な考え方＞

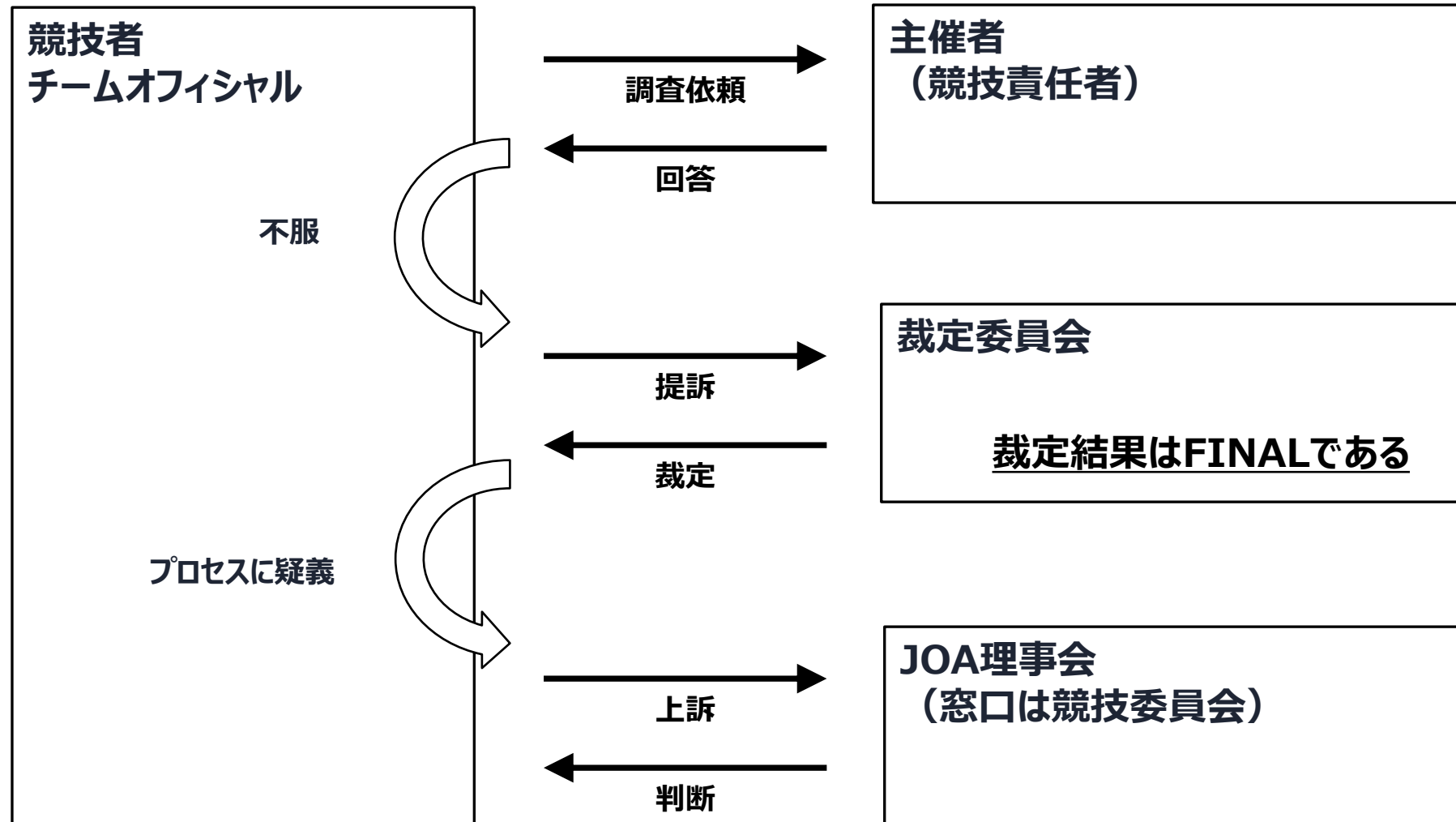
- 当該規則違反について競技規則に定義がある場合はそれにしたがう。
- 重大な規則違反を犯した競技者は失格となる。
- 重大でない規則違反であって、それによってむしろ競技者が不利益を得たような場合は、失格にするべきではない。
- 重大でない規則違反であれば、規則違反を犯す前の時点に戻ることによって競技を継続することができる。
- 個々の状況により、競技者間で不公平が生じる場合や、競技者に過度の不利益が生じる場合があるので、主催者が適切に判断する。

Positive & Flexible



調査依頼→提訴→上訴の概要

参考





- **競技に関する疑義が生じたとき、主催者に対して調査依頼をすることができる。**
JOA規則では、慣例的なわかりやすさからComplaintsを調査依頼としている
- **調査依頼できるのは、競技者およびチーム・オフィシャルである。**
- **文書で提出する。**
- **主催者（またはEA）はただちに調査し、結果を依頼者に通知する。**
公式掲示板に掲示してもよい。
- **制限時間は、対象の競技者の結果公表後15分。（正当な理由があれば延長可）**
異なる制限時間とするときは、ブレティンに記載。

IOF規則の記載

27. Complaints

- 規則や主催者からの指示に違反がある場合に、チーム・オフィシャルまたは競技者が行う。
- 主催者が判定し回答する。



- 調査依頼への回答が不服な場合に、提訴を行うことができる。
- 提訴できるのは、競技者およびチーム・オフィシャルである。
- 調査依頼の回答後15分以内に文書で主催者宛に提出する。（正当な理由があれば延長可）

IOF規則の記載

28. Protests

- Complaintsに対する主催者の判定について、チーム・オフィシャルまたは競技者が行う。
- Juryが判定する。Juryの決定が最終となる。



- 提訴を裁定する。
- 主催者が3名の裁定委員を任命する。
 - JOAが必要と認めた大会では、JOAが任命する。
- 裁定委員は、競技規則を熟知し、運営経験を有すること。
 - 最低1名はJOAイベントアドバイザーであることが望ましい
 - 経験、年齢、性別、地域などのバランスを考慮
- 事前に発表する。

IOF規則の記載

29. Jury

- Protestsに対処する。



- イベントアドバイザーが裁定委員会の議長を務める。投票権は有しない。
 - EAは、必要に応じて当事者から聞き取り、あるいは資料の提出を求めることができる。
 - EAは、「競技規則」および「関連規則類」を参照できるように用意し、事案のポイントと該当する規則箇所を裁定委員に説明する。
- 裁定委員会は全員の出席をもって成立する。
 - 出席できない裁定委員がいた場合、EAが代理を任命する。
 - 緊急の場合は、過半数で仮裁定が可。
- 裁定委員が提訴に関わる利害関係者となる場合、EAが代理を任命する。
- 主催者も裁定委員会に出席できる。決定前に退席を求めてもよい。投票権は有しない。
- 裁定委員会は、すべての提訴に対して裁定を下す。主催者は裁定委員会の決定にしたがう。
- 裁定委員会の決定をもって、最終裁定とする。



- 裁定委員会がまだ組織されていないか、競技会が終わって裁定委員会が活動終了していた場合は、JOA理事会が裁定委員の役割を担う。
 - ブレティンで公表された内容や、成績表に内容に案する調査依頼の回答に不服があった場合など
 - 実際には、競技委員会が窓口となって対応し、必要に応じて理事会に上申する。

- 裁定委員会を招集し、議長を務める。
- 提訴の内容を正しく裁定委員会に説明する。
 - 何を求めている提訴であるか？
 - 競技規則のどこに該当する事案であるか？
- 裁定委員会が判断するために必要な資料（物的証拠、証言など）を揃える。

競技規則類一式を、すぐに参照できる状態に準備しておくこと。

事後処理をしなければならない事柄が残ったときには、必ずJOA競技委員会へ報告する。



- **裁定委員会の運営に重大な手続き上の瑕疵があった場合**
 - 裁定委員会に利害関係のある者を残したまま採決してしまった場合
 - 裁定委員会の決定をEAまたは利害関係者が誘導してしまった場合
 - その他、裁定委員会の進行に重大な瑕疵が認められた場合 など
- **競技規則が明らかに誤って適用または解釈がされていた場合**
- **JOA 事務局宛に書面で提出する。**
- **JOA 理事会が上訴を取り扱う。**

(競技委員会が窓口となって対応し、必要に応じて理事会に上申する。)

IOF規則の記載

30. Appeals

- Juryがない場合（組織前、解散後）や、Juryのプロセスに疑義があった場合に、各国の連盟が行う。
- IOF理事会が対応する。



- JSAA (Japan Sports Arbitration Agency) 2003年に設立
- 競技者と競技団体との間には様々な紛争が発生することがある（代表選手選考やドーピング規則違反による資格停止処分）ため、スポーツをめぐる争いを公正・適正かつ迅速に解決し、アスリートがスポーツに打ち込みやすくすることを目的とする。
- JOAは、JSAA仲裁に申し立てがあったときには、受け入れることを宣言している。
- 裁定委員会の決定に不服な場合には、JSAAに仲裁／調停を申し立てることができる。

スポーツ仲裁に関する申し合わせ

公益社団法人 日本オリエンテーリング協会

1. 趣旨

本申し合わせは、公益社団法人日本オリエンテーリング協会（以下「JOA」）が行った決定に対して会員、競技者、指導者、その他関連する団体、個人が不服申立を行った際に、紛争を迅速かつ円滑に解決するために、JOA がとる対応の基本方針を申し合わせるものである。

2. 基本方針

JOA がする決定に対する不服申立は、一般社団法人日本スポーツ仲裁機構の「スポーツ仲裁規則」に従ってなされるスポーツ仲裁により解決されるものとする。

3. 申し合わせの変更

本申し合わせは、理事会の決定により、変更または廃止等を行うことができる。

http://www.orienteering.or.jp/archive/rule/rule_059.pdf



- JSAAは、以下の手続きにしたがって、公平な仲裁を行う。

＜判断のポイント＞

1. 規則に違反するか（具体的にどの規則に抵触するのか）

- ① 競技者側に規則違反があったか
- ② 運営者側に規則違反があったか

2. 決定結果に合理性を欠いていないか

- ① 運営者側に裁量の有無があるか
- ② 平等原則に違反するか
- ③ 比例原則に違反するか

3. 決定に至る手続きに瑕疵はないか

4. そもそも、規則が合理的か



- **大会の決定後3 カ月以内に、JOA がイベントアドバイザーを任命する。**
 - 全日本大会 JOAが指名
イベントアドバイザー資格が必要
 - 公認大会 主催者とJOAが協議して指名
イベントアドバイザー、准イベントアドバイザー資格が必要
手配ができない場合は、同等の経験・能力が認められる者
- **イベントアドバイザーは、**
 - **JOA（任命した機関）からの公式な代表者である。**
 - **運営組織からは独立した立場でなければならない。**
 - **JOA イベントアドバイザーの資格が必要。**
- **JOA は、イベントアドバイザーの任命を取り消すことができる。**
- **アシスタントEAを置いてもよい。（地図の作成、コース設定、後援、メディアなど特定の分野でEAを補佐）**
 - 事前にJOA競技委員会の承認が必要



- 「競技規則」および「関連規則類」が遵守され、間違いが排除され、最善の公平さが保たれていることに責任を持つ。調整することを強制する権限を持つ。
- 主催者と協力して動き、必要な情報が適切に知らされているようにする。
- 必要に応じて（最低でも3回）現地視察する。
 - 6カ月～1年前 地図および大会運営の概要が固まった時期
 - 2カ月～6カ月前 コースおよびコントロール位置がほぼ確定した時期
 - 前日および当日



- 競技会のすべてを把握、監視、指揮する。
 - 競技会の開催地およびトレインの承認
 - 実行委員会組織の調査と、輸送、タイムテーブル、予算の妥当性の評価
 - 式典の計画の評価
 - 係員の配置、スタート、フィニッシュおよびチェンジオーバー地区のレイアウトの承認
 - 計時および成績を計算するシステムの信頼性および正確性の評価
 - 地図が「地図図式」に適合しているかの確認
 - 難易度、コントロールの位置と器具、偶然性の要因および地図の正確さを含め、コースの品質を評価およびコースの承認
 - メディアのための段取りおよび設備の評価
 - ドーピング・テストの段取りおよび設備の評価
 - 公式結果の承認

【EAの承認事項】

- ブレイン2（大会要項）
- コースおよび優勝設定時間
- ブレイン3（プログラム）およびスタートリスト（クラス別時間帯、時間間隔など）
- ブレイン4（公式掲示）
- 公式成績表



点検リスト

適切に競技会の開催準備ができていないか点検するためのリスト／シートが用意されているので、利用されたい。

イベントアドバイザー点検リスト

http://www.orienteering.or.jp/archive/rule/rule_049.pdf

イベントアドバイザー点検シート

http://www.orienteering.or.jp/archive/rule/eventadvisorsInspectionSheet_180512ver.2.pdf

参考

大会概要

要 項

コース設定

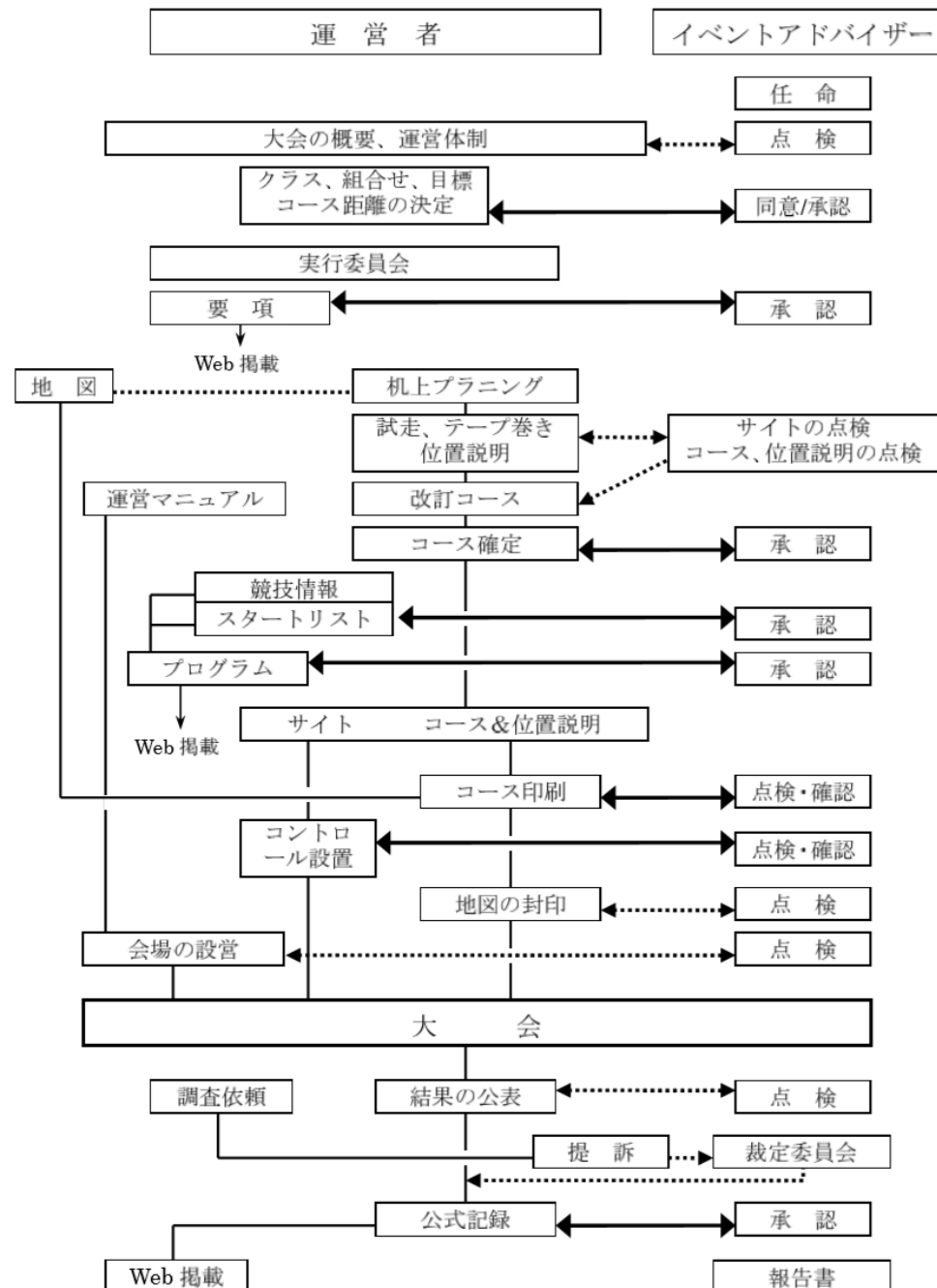
プログラム

コース地図

コース設定

大会運営

大会後処理





- **競技会を開催するには、関係各所と連携して協力を得ることが重要である。**

- 地権者、管理者
- 自治会
- 大会会場
- テレインの制約
- 役場
- 警察
- 交通
- 病院
- メディア、協賛
- 時期
- 安全対策
- テレインの利用許可
- 地元の協力
- 立入禁止（危険）、自然保護区
- 必要な届け出はないか
- 道路使用許可
- 地元の利用者に迷惑にならないか
- 狩猟、収穫
- 競技者の安全、周囲の人たちの安全

～オリエンテーリングが社会に認められるスポーツでなければならない～



- **主催者（主管者）による報告**
 - **競技会終了後、1 カ月以内**
 - **JOA 事務局宛、EAにも共有するのが望ましい**
 - **大会報告書**
 - 大会名、開催日、天候、参加者数、
 - 調査依頼の概要、提訴案件
 - 救護案件およびその対応
 - 課題と反省
 - その他特記事項
- **添付資料**
 - **公式成績表**
 - **男女の最上位クラスのコース図と全コントロール図各 1 枚**
 - その他関連資料（報道記事、写真、スポンサーへの報告に必要な資料等）



- ・ イベントアドバイザーによる報告
 - ・ 競技会終了後、1 カ月以内
 - ・ 任命した機関（通常はJOA事務局）宛
 - ・ 記載事項 …… 競技会の特記すべき事項、調査依頼および提訴の詳細
 - 点検結果の概要
 - 競技規則および関連規則類からの逸脱事項とその対応
 - 主催者からの検討事項とその対応
 - 裁定委員会を開催した場合には、裁定結果、審議の内容および関連資料

重要なフォロー事項があった場合には、JOA競技委員会にも報告する

- ・ 競技規則の改正要望、エリート権に関する特例の必要 など



- **メディアに対しては、競技の公平性を損ねない範囲で、最大限の便宜を図る。**

- スタート・リスト、プログラム小冊子
- モデル・イベントに参加する機会
- **成績リストとコースの記載された地図**

←IOF規則2023年版では、スタートリストや成績リストはネットに掲載できるので、地図を提供すればよいと改正された。

さらにIOF規則では、以下を要求していることに留意。

- フィニッシュ地区において、悪天防止対策のされた静かな作業スペース。
- インターネットへのアクセス。料金は利用者が負担。 等

- 後援、協賛および協力者には、謝意を持って対応する。
 - 公序良俗に反するところからの広告や後援はNG

- 1996年にIOFは、オリエンテーリングが自然環境と友好的な関係を維持することの重要性を認識し、以下の原則を採択した
 - 健全な環境を保護する必要を理解し、この原則をオリエンテーリングの基礎的な行為と統合することを継続すること。
 - 競技規則および競技会を組織する最もよい実施方法が、自然環境および植物相と動物相の保護に関する原則に反しないことを保証すること。
 - 最もよい実施方法が明確に定義づけられるように、地主、行政当局、および環境組織と協力すること。
 - 環境保全のための地方ごとの規制を遵守し、オリエンテーリングでゴミを出さない性質を維持し、汚染を避けるために必要な措置をとることに、特に配慮すること。
 - オリエンティアおよび役員の教育およびトレーニングに、環境へのよい実践に関することを含むこと。
 - 各国の連盟が、世界的な環境問題の理解を高め、地方における繊細なオリエンテーリングの使用を維持するための原則を採択して適用し、広く認知されるようにすること。
 - 各国の連盟が、自国の事情にそって環境への良い実践ガイドラインを用意することを、推奨すること。



- IOFは、2000年8月4日の第20回総会で、オリンピック種目を目指すことを宣言した。
 - 競技者、役員、メディア、観客、スポンサー、外部パートナーにとって良質で、魅力的でエキサイトなオリエンテーリング競技会を開催すること。
 - IOFイベントをTVやインターネットにとって魅力的なものとする。
- 競技会を人々のいる場所の近くで開催し、オリエンテーリングがより見やすいものにする。
- 設備の設計や品質により多くの注意を払うことにより、競技会場をより魅力的にする。
- 競技会場内にスタートとフィニッシュを設けることにより、競技会場をエキサイトな雰囲気改善する。
- スリリングなスポーツ番組を作成するために、競技会がより多くのより良い機会を提供することにより、テレビやその他のメディアでの報道範囲を高める。
- メディア取材者の便宜を図り、ケータリングを改善（通信機器、スタート／フィニッシュおよび森の中でのランナーへの接近、絶え間のない中間タイム計時情報、食事や飲料などについて）することにより、メディア・サービスを改善する。
- IOF競技会に関連しているスポンサーや外部パートナーを宣伝することに、より多くの注意を払う。

